

大学番号：231

注3

[平成27年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

届出

名古屋学院大学 国際文化学部

注2

## 【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人名古屋学院大学  
平成28年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 ソウゴウキカクカ カチョウ テグチ ヒロヤ  
総合企画課 課長 出口 博也

電話番号 052-678-4077

（夜間） 052-678-4080

F A X 052-683-0410

e-mail k i k a k u @ n g u . a c . j p

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成28年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## 国際文化学部

<国際文化学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	17
6. 留意事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	32

<国際協力量科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	35
2. 授業科目の概要	39
3. 施設・設備の整備状況、経費	46
4. 既設大学等の状況	47
5. 教員組織の状況	49
6. 留意事項等に対する履行状況等	62
7. その他全般的事項	63

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人名古屋学院大学

## (2) 大学名

名古屋学院大学

## (3) 大学の位置

名古屋キャンパス白鳥学舎

〒456-8612

愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号

名古屋キャンパス日比野学舎

〒456-0062

愛知県名古屋市熱田区大宝三丁目1番17号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イナガキ タカシ) 稲垣隆司 (平成24年8月)	(スエヤス ケンジ) 末安堅二 (平成27年8月)	任期満了のため変更 平成27年8月3日(28)
学長	(キブネ ヒサオ) 木船久雄 (平成23年4月)		
学部長	(キムラ コウシン) 木村光伸 (平成27年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 平成26年度に報告済の内容 → (26)  
平成28年度に報告する内容 → (28)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
  - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
  - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。  
 ・ 様式は, 平成25年度開設の4年制の学科の場合(平成28年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
国際文化学部 国際文化学科 学士(国際文化)	4年	100人	年次 -人	400人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 100 ( - ) [ - ]	人 - ( - ) [ - ]	人 100 ( - ) [ - ]	人 - ( - ) [ - ]	人 ( ) ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	1.01 倍	
志願者数	440 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	449 ( - ) [ 1 ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
受験者数	434 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	441 ( - ) [ 1 ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
合格者数	340 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	389 ( - ) [ 1 ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
B 入学者数	93 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	109 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
入学定員超過率 B/A	0.93		1.09							

- (注) ・ 数字は, 平成28年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( ) 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( ))書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[ 1 ] ( - ) 93	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) 109	[ - ] ( - ) -	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	平成27年度に退学1名、除籍3名、他学部への転学部1名となり、平成28年度新入生を含め197名になった(28)
2年次	/		[ 1 ] ( - ) 88	[ - ] ( - ) -	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次	/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
4年次	/		/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	
計	[ 1 ] ( - ) 93	[ - ] ( - )	[ 1 ] ( - ) 197	[ - ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成27年度 入学者	93 人	4 人	平成27年度	4 人	0 人	就学意欲の低下(4人)	4.3 %
			平成28年度	0 人	0 人	-	
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
平成28年度 入学者	109 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	-	0.0 %
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
平成29年度 入学者	人	0 人	平成29年度	人	人		%
			平成30年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		%
合 計	202 人	4 人					2.0 %

(注)・数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要ありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成28年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

## 2 授業科目の概要

<国際文化学部 国際文化学科>

### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
キリスト教	キリスト教概説	1前	2					1				
	キリスト教教学	1後	2					1				
	キリスト教と文学	2・3・4前		2							兼1	
	キリスト教と文化	2・3・4後		2							兼1	
	キリスト教倫理	2・3・4前		2							兼2 兼4	教育効果を考慮し、杉本講師(兼任)を担当者として追加(28)
	キリスト教史	1・2・3・4後		2							兼1	
自己理解と自己開発	基礎セミナー	1前	2			8	2	4				
	発展セミナー	1後		2		8	2	4				
	キャリアデザイン1a	1前		2							兼2	
	キャリアデザイン1b	1後		2							兼2	
	キャリアデザイン2a	2前		2							兼3	
	キャリアデザイン2b	2後		2							兼3	
	キャリアデザイン3a	3前		2							兼1	
	キャリアデザイン3b	3後		2							兼1	
	ボランティア学	未開講 1・2・3・4前		2							兼2 兼4	教学上の理由により、未開講(28) 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
	ボランティア演習	1・2・3・4後		2							兼3 兼4	教育効果を考慮し、担当者を追加(27) 集中(28) ※実習
インターンシップ1	1・2・3・4前・後		2							兼3 兼4	教育効果を考慮し、家本教授(兼任)、田中講師(兼任)を担当者として追加(28) 集中	
	1・2・3・4前・後		2							兼3 兼4	教育効果を考慮し、家本教授(兼任)、田中講師(兼任)を担当者として追加(28) 集中	
人間理解	哲学	1・2・3・4前		2							兼1	
	哲学史	1・2・3・4後		2							兼1	
	日本文学	1・2・3・4前		2							兼1	
	日本文学史	1・2・3・4後		2							兼1	
	心理学概論	1・2・3・4前・後		2							兼2 兼3 兼2	教学上の理由により、谷口教授(兼任)が担当を外れたが、中島准教授(兼任)、加藤講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
	文明論	1・2・3・4後		2							兼1	
	宗教と人間	1・2・3・4前 1・2・3・4後		2							兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(27)
	聖書と人間	1・2・3・4前		2							兼2 兼4	教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)
	キリスト教人間学	2・3・4前		2							兼1	
	死生学	1・2・3・4前		2							兼1 兼3	教学上の理由により、兼任講師1名に担当変更(27) オムニバス
臨床心理学	1・2・3・4前・後		2								兼1	
	1・2・3・4前		2					1			兼2 兼3	定年退職により、岡澤教授(兼任)が担当を外れたが、宮坂講師(専任)、早川教授(兼任)、野尻講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
社会的教養	社会学入門	1・2・3・4前		2				1			兼2 兼3	定年退職により、岡澤教授(兼任)が担当を外れたが、宮坂講師(専任)、早川教授(兼任)、野尻講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
	宗教社会学	1・2・3・4前・後		2				1			兼0 兼4	岡澤教授(兼任)が担当を外れたが、宮坂講師(専任)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
	比較宗教学	1・2・3・4後		2							兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4前・後		2							兼2 兼4	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
	現代社会と法律	1・2・3・4前・後		2							兼2 兼4	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
	現代社会と経済	1・2・3・4前・後		2							兼2 兼4	教育効果を考慮し、担当者を変更及び追加(27)
	企業と社会	1・2・3・4前・後		2							兼2 兼4	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					備考		
			必修	選択自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
N G U 教 養 学 科 目	社会理解	国際関係論入門	1・2・3・4後	2							兼1	
		国際政治学	1・2・3・4前	2							兼1	
		国際社会問題	1・2・3・4前・後	2							兼1	
		現代社会と教育	1・2・3・4後	2							兼1	
		平和学入門	1・2・3・4前・後	2							兼1	
		人権と社会	1・2・3・4前 1+2・3・4前・後	2							兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(27)
	自然理解	数学	1・2・3・4前	2							兼1	
		数理科学	1・2・3・4後	2							兼1	
		基礎統計学	1・2・3・4前	2							兼1	
		実用統計学	1・2・3・4後	2							兼1	
		化学	1・2・3・4前	2							兼1	
		生物学	1・2・3・4前・後	2							兼1	
		地球科学概論	1・2・3・4前	2							兼1	
		地球物理学概論	1・2・3・4後	2							兼1	
		人類学	1・2・3・4前	2							兼1	
	物理学	1・2・3・4後	2							兼1		
	生命倫理	1・2・3・4後	2							兼1 兼2	教学上の理由により、兼任講師1名に担当変更(27) オムニバス	
	歴史文化理解	日本史	1・2・3・4前	2		1					兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		日本思想史	1・2・3・4前・後	2							兼1	
		中国文化入門	1・2・3・4前	2		1						
		英米文化入門	1・2・3・4後	2							兼1	集中(28)
		文化人類学入門	1・2・3・4後	2				1			兼1	
		世界の近現代史	1・2・3・4前	2				1				
		世界史	1・2・3・4後	2				1				
		考古学入門	1・2・3・4後	2			1					
		陶芸論	1・2・3・4前	2							兼1	
		陶芸演習	1・2・3・4後	2							兼1	集中(28)
	環境理解	環境科学	1・2・3・4前	2							兼1	本年度開講(28) 未開講(27) 集中(28)
		生態学	1・2・3・4前・後	2							兼1	
		地球環境学	1・2・3・4前	2							兼1	
	身体理解	健康の科学	1・2・3・4前・後	2							兼1	
		スポーツの科学	1・2・3・4前・後	2							兼1	
		スポーツ初級A	1・2・3・4前・後	1							兼4 兼2	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		スポーツ初級B	1・2・3・4後 1+2・3・4前・後	1							兼4 兼2	教学上の理由により、開講時期を変更。 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		スポーツ中級A	2・3・4前・後	1							兼5 兼2	教育効果を考慮し、白井講師(兼任)、米川講師(兼任)、鬼頭講師(兼任)を担当者として追加(28)
		スポーツ中級B	2・3・4前・後	1							兼5 兼3	教育効果を考慮し、白井講師(兼任)、鬼頭講師(兼任)を担当者として追加(28)
スポーツ上級A		3・4前・後	1							兼1		
スポーツ上級B		3・4後	1							兼1		
地域理解	地域商業まちづくり学	1・2・3・4前 1+2・3・4前・後	2							兼3 兼4	教学上の理由により、開講時期を変更。 教育効果を考慮し、担当者を追加(27) オムニバス(28)	
	歴史観光まちづくり学	1・2・3・4前・後	2							兼1		
	減災福祉まちづくり学	1・2・3・4前・後	2							兼1		
	地域商業まちづくり演習	1・2・3・4後	2							兼1		
	歴史観光まちづくり演習	1・2・3・4後	2							兼1		
	減災福祉まちづくり演習	1・2・3・4後	2							兼1		
上級まちづくり演習	2・3・4前後	2							兼3			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
N G U 教 養 ス タ ン ダ ー ド 科 目	日本語表現	1前・後	2									兼2 教育効果を考慮し、濱野講師(兼任)を担当者として追加(28) 兼1	
	日本語表現上級	1前・後		2								兼3	
	基礎英語1	1前	1									兼2 教学上の理由により、担当者を変更(28) 兼3 教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27) 兼2	
	基礎英語2	1後	1									兼2 教学上の理由により、担当者を変更(28) 兼3 教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27) 兼2	
	英会話1	1前	1									兼2 教学上の理由により、担当者を変更(28) 兼4 教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27) 兼3	
	英会話2	1後	1									兼3 教学上の理由により、担当者を変更(28) 兼4 教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27) 兼3	
	入門ドイツ語1	1前		1		1						兼0 教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教授に変更(27) 兼1	
	入門ドイツ語2	1後		1		1						兼0 教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教授に変更(27) 兼1	
	基礎ドイツ語1	1前		1			1					兼0 教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教授に変更(27) 兼1	
	基礎ドイツ語2	1後		1			1					兼0 教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教授に変更(27) 兼1	
	入門フランス語1	1前		1			1					兼1 履修人数の減少により担当者数を変更(27) 兼2	
	入門フランス語2	1後		1			1					兼1 履修人数の減少により担当者数を変更(27) 兼2	
	基礎フランス語1	1前		1			1					兼1 履修人数の減少により担当者数を変更(27) 兼2	
	基礎フランス語2	1後		1			1					兼1 履修人数の減少により担当者数を変更(27) 兼2	
	入門スペイン語1	1前		1								兼2	
	入門スペイン語2	1後		1								兼2	
	基礎スペイン語1	1前		1								兼2	
	基礎スペイン語2	1後		1								兼2	
	入門中国語1	1前		1		1						兼1 履修人数の減少により担当者数を変更(27) 兼2	
	入門中国語2	1後		1		1						兼1 履修人数の減少により担当者数を変更(27) 兼2	
	基礎中国語1	1前		1		2						兼0 教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教授に変更(27) 兼2	
	基礎中国語2	1後		1		2						兼0 教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教授に変更(27) 兼2	
	入門韓国語1	1前		1								兼1	
	入門韓国語2	1後		1								兼1	
	基礎韓国語1	1前		1								兼1	
	基礎韓国語2	1後		1								兼1	
	手話入門	1後 1前		1								兼1 教学上の理由により、開講時期を変更(27)	
	手話基礎	1後		1								兼1	
	情報 処理	情報処理基礎	1前	2									兼1
		情報概論	2後		2								兼1
教 職	教職論	1後		2								兼1	
	教育原理	1後		2								兼1	
	教育心理学概論1	1前		2								兼1	
	教育心理学概論2	1後		2								兼1	
	教育制度論	1前		2								兼1	
	特別活動論	2前		2								兼1	
	教育の方法と技術	2後		2								兼1	
	道徳教育論	2後		2								兼1	
	生徒・進路指導論	2後		2								兼1	
	教育相談	2前		2								兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
学 部 共 通 科 目	国際文化理解英語1	2前		1								兼1	
	国際文化理解英語2	2後		1								兼1	
	留学英語中級	2後 2前		1								兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(28)
	留学英語上級	2前 2後		1								兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(28)
	TOEIC英語入門	1後		1								兼1	
	TOEIC英語基礎1	2前		1								兼1	
	TOEIC英語基礎2	2後		1								兼1	
	TOEIC英語実践1	2前		1								兼1	
	TOEIC英語実践2	2後		1								兼1	
	ビジネス英語1	2前		1								兼1	
	ビジネス英語2	2後		1								兼1	
	時事ドイツ語1	2前		1				1					
	時事ドイツ語2	2後		1				1					
	応用ドイツ語1	2前		1				1					
	応用ドイツ語2	2後		1				1					
	実践ドイツ語1	3前		1								兼1	
	実践ドイツ語2	3後		1								兼1	
	時事フランス語1	2前		1					1			兼1	教育効果を考慮し、鈴木准教授(専任)を担当者として追加(28)
	時事フランス語2	2後		1					1			兼1	教育効果を考慮し、鈴木准教授(専任)を担当者として追加(28)
	応用フランス語1	2前		1					1			兼1	教育効果を考慮し、河脇講師(兼任)を担当者として追加(28)
	応用フランス語2	2後		1					1			兼1	教育効果を考慮し、河脇講師(兼任)を担当者として追加(28)
	実践フランス語1	3前		1								兼1	
	実践フランス語2	3後		1								兼1	
	時事スペイン語1	2前		1								兼2 兼3	教学上の理由により、担当者を変更(28)
	時事スペイン語2	2後		1								兼2 兼3	教学上の理由により、担当者を変更(28)
	応用スペイン語1	2前		1								兼2 兼3	教学上の理由により、担当者を変更(28)
	応用スペイン語2	2後		1								兼2 兼3	教学上の理由により、担当者を変更(28)
	実践スペイン語1	3前		1								兼3	
	実践スペイン語2	3後		1								兼3	
	時事中国語1	2前		1				3					
	時事中国語2	2後		1				3					
	応用中国語1	2前		1				3					
	応用中国語2	2後		1				3					
	実践中国語1	3前		1				1				兼1	
	実践中国語2	3後		1				1				兼1	
	コミュニケーション中国語1	1前		1				1					
	コミュニケーション中国語2	1後		1				1					
	ビジュアル中国語	2後		1				1					
	日常中国語1	2前		1				1					
	日常中国語2	2後		1				1					
	中国語検定読解入門	3前		1				1					
	アジア言語入門1	2前		1								兼1	
アジア言語入門2	2後		1								兼1		
コンピュータ技法1	2前		2				1						
コンピュータ技法2	2後		2				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手						
学部 共通科目	国際 理解 科目	国際文化論	1前	2			2					兼1	オムニバス			
		キリスト教文化論1	2前		2				1							
		キリスト教文化論2	2後		2				1							
		文化人類学	1前		2				1							
		グローバル社会文化論	1後		2			1					兼1	オムニバス		
		日本史概説	1前		2			2								
		日本文化論	1後	2				1								
		比較宗教論	2前		2					1						
		宗教と平和	2後		2					1						
		国際環境論	2前		2								兼1			
学部 基 幹 科 目	学 科 専 門 科 目	英語演習1	1前	1			1					兼1 兼3 兼2	教学上の理由により、担当者を変更(28) 教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)			
		英語演習2	1後	1			1					兼1 兼3 兼2	教学上の理由により、担当者を変更(28) 教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)			
		英語演習3	2前	1			1						兼2			
		英語演習4	2後	1			1						兼2			
		英語演習5	2前	1			1						兼3 兼2	教育効果を考慮し、担当者を追加(28)		
		英語演習6	2後	1			1						兼4 兼2	教育効果を考慮し、担当者を追加(28)		
		異文化コミュニケーション論	2前	2			1									
		比較文化・社会論1	2前	2			1									
		比較文化・社会論2	2後	2	2			1								
		文化マネジメント論	2前	2									兼1			
		多文化共生社会論	2後	2									兼1			
		東西交渉史	2前	2						1						
		観光文化論	2後	2									兼1			
		現代芸術論	2前	2									兼1			
		メディア文化論	2前	2									兼1			
		情報文化論	2前	2						1						
		多文化教育論	2後	2									兼1			
		人間行動論	2前	2						1						
		比較認知科学	2後	2						1						
		比較社会心理学	2前	2						1						
		現代経済入門	2後	2									兼1			
		グ ロ ー バ ル 文 化 展 開 科 目	グ ロ ー バ ル 文 化 展 開 科 目	アメリカ社会文化論	2前	2								兼1		
				アメリカ政治経済論	2後	2									兼1	
				英米文学概論1	2前	2									兼1	
				英米文学概論2	2後	2									兼1	
				英米文学講義1	2前	2									兼1	
				英米文学講義2	2後	2									兼1	
				英文学史	2前 2後	2									兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(28)
				米文学史	2後	2									兼1	
				ヨーロッパ文化総論	2前	2			1							
ヨーロッパ地域文化論A	2前			2				1								
ヨーロッパ地域文化論B	2後			2				1								
ヨーロッパ地域文化論C	2前			2				1								
地中海文化圏論	2後			2									兼1			
日欧交流史	3後			2			1									
環太平洋地域文化論	3前			2									兼2	オムニバス		
イスラム文化圏論	3後			2						1						
文化変容論	3前			2									兼1			
マイノリティ論	2前			2									兼1			
比較文化行動論	3前	2			1											
グローバル経済論	3後	2									兼1					
グローバル・ビジネス・コミュニケーション	3前	2									兼1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学 科 専 門 科 目	日本文化史	2前		2		2						オムニバス(28)
	日本の思想	2後		2		2						オムニバス
	日本の民俗学	2前		2				1				
	日本社会論	2後		2							兼1	
	日本地域史論	3前		2		2						オムニバス
	日本アジア交流史	2前		2		1						
	現代中国事情	2後		2							兼1	
	中国文化社会論	2前		2		1						
	韓国文化社会論	2後		2							兼1	
	現代アジア文化社会論	2前		2							兼1	
	南アジア文化社会論	2後		2				1				
	日中関係論	2前		2							兼1	
	中国社会経済論	3前		2							兼1	
	日本のポップカルチャーとアジア	3後		2		1						
	アジアの商習慣	3前		2							兼1	
	アジア就業事情	3後		2							兼1	
	文化交流論	2前		2							兼1	
	ジェンダー論	2前		2							兼1	
	国際人権論	2後		2							兼1	
	平和学	2春 2後		2							兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(28)
国際地理論	1後		2							兼1		
世界遺産と保全	3前		2							兼1		
留 学 科 目	海外事情1	1・2・3・4前・後		2							兼1	集中
	海外事情2	1・2・3・4前・後		2							兼1	集中
	海外事情3	1・2・3・4前・後		2							兼1	集中
	海外事情4	1・2・3・4前・後		2							兼1	集中
演 習 科 目	フィールドワーク	1・2・3前		1		2	0	2				集中
	国際文化理解実践論1	1・2・3前		2		3	2	2				
	国際文化理解実践論2	1・2・3後		2		3	2	2				
	国際文化基礎演習1	2前	2			8	2	4				
	国際文化基礎演習2	2後	2			8	2	4				
	国際文化演習	3～4通	8			8	2	4				

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

## (2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 22	科目 228	科目 0	科目 250	科目 [0]	科目 [0]	科目 [0]	科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	ボランティア学	2	1・2・3・4	一般	選択	教学上の理由により未開講。代替措置なし。次年度開講の予定で調整を進めている。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「ボランティア学」については、教学上の理由により未開講。次年度開講の予定で調整を進めている。学生に対しては履修登録システムにおいて周知をしている。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考				
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	その他に校舎敷地とする空地を含んでいたため訂正した。また、その他に法人所有地を含んでいたため控除した。(27)				
	校舎敷地	234,924.84 225,418.99 m <sup>2</sup> 144,021.00	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	234,924.84 225,418.99 m <sup>2</sup> 144,021.00					
	運動場用地	83,493.78 81,632.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	83,493.78 81,632.00 m <sup>2</sup>					
	小 計	318,418.62 308,912.77 m <sup>2</sup> 225,653.00	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	318,418.62 308,912.77 m <sup>2</sup> 225,653.00					
	そ の 他	64,445.76 181,773.53 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	64,445.76 181,773.53 m <sup>2</sup>					
	合 計	382,864.38 373,358.53 m <sup>2</sup> 407,426.53	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	382,864.38 373,358.53 m <sup>2</sup> 407,426.53					
(2) 校 舎	専 用	74,094.01 m <sup>2</sup> 74,102.73 m <sup>2</sup> (74,094.01 m <sup>2</sup> ) (74,102.73 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	74,094.01 m <sup>2</sup> 74,102.73 m <sup>2</sup> (74,094.01 m <sup>2</sup> ) (74,102.73 m <sup>2</sup> )	平成27年1月竣工の新校舎の面積を、建築面積から登記上の面積に修正した。(27)				
	共 用									
(3) 教 室 等	講義室	95室	演習室	82室	実験実習室	27室	情報処理学習施設	6室 (補助職員 0人)	語学学習施設	8室 (補助職員 0人)
	新設学部等の名称		室 数							
(4) 専任教員研究室	国際文化学部国際文化学科		14 室							
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点			
	国際文化学部	115,443[32,995] 111,019[32,647] (113,984[32,818]) (+12,660[32,738]) (-111,019[32,647])	1,060[495] (1,060[495])	400[400] (400[400])	1,898 (1,728) (+1,694) (-1,642)	1,612 (1,612)	0 (0)	平成27年度報告漏れのため、2年分の変更を記載(28)		
	計	115,443[32,995] 111,019[32,647] (113,984[32,818]) (+12,660[32,738]) (-111,019[32,647])	1,060[495] (1,060[495])	400[400] (400[400])	1,898 (1,728) (+1,694) (-1,642)	1,612 (1,612)	0 (0)			
(6) 図 書 館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	5,907.13 m <sup>2</sup>		869 857 778		550,000		平成27年度報告漏れのため、2年分の変更を記載。平成27年度、平成28年度ともに瀬戸図書館の席数増加(28)			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	6,711.52 m <sup>2</sup>		野球場1面、屋内プール1面、テニスコート17面、ゴルフ練習場1面他							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費は大学全体で配分	
		教員1人当り研究費等	680千円	680千円	図書購入費	5,270千円	5,270千円	5,270千円		
	共同研究費等	3,697千円	3,697千円	設備購入費	0千円	0千円	0千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
1,370千円		1,090千円	1,090千円	1,090千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金収入、手数料収入、資産運用収入、雑収入等								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成28年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(28)」を「備考」に赤字で記入してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋学院大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
経済学部						1.16			
経済学科	4	250	-	1,100	学士(経済学)	1.16	昭和39年度	愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号	平成27年度より3年次編入学定員(10)廃止、入学定員を300から250に変更。
総合政策学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成12年度	同上	平成27年度より学生募集停止
現代社会学部						0.91			
現代社会学科	4	150	-	300	学士(現代社会)	0.91	平成27年度	同上	
商学部						1.17			
商学科	4	200	-	800	学士(商学)	1.20	平成4年度	同上	平成27年度より3年次編入学定員(5)廃止
経営情報学科	4	100	-	400	学士(商学)	1.10	平成15年度	同上	
法学部						1.17			
法学科	4	150	-	600	学士(法学)	1.17	平成25年度	同上	
外国語学部						1.18			
英米語学科	4	140	-	560	学士(文学)	1.18	平成元年度	同上	
中国コミュニケーション学科	4	-	-	-	学士(文学)	-	平成元年度	同上	平成27年度より学生募集停止
国際文化協力量科	4	-	-	-	学士(文学)	-	平成17年度	同上	平成27年度より学生募集停止
国際文化学部						0.88			
国際文化学科	4	100	-	200	学士(文学)	1.01	平成27年度	同上	
国際協力量科	4	50	-	100	学士(文学)	0.65	平成27年度	同上	
スポーツ健康学部						1.16			
スポーツ健康学科	4	120	-	480	学士(スポーツ健康)	1.26	平成22年度	愛知県瀬戸市上品野町1350番地	
こどもスポーツ教育学科	4	50	-	100	学士(こどもスポーツ教育)	0.50	平成27年度	同上	
リハビリテーション学部						1.15			
理学療法学科	4	80	-	320	学士(理学療法)	1.15	平成22年度	同上	

大学の名称	名古屋学院大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	
経済経営研究科	年	人	年次人	人		倍			
経済学専攻 修士課程	2	7	-	14	修士 (経済学)	1.28	平成9年度	愛知県名古屋市熱田区大宝三丁目1番17号	
経営政策専攻 博士前期課程	2	20	-	40	修士 (経営学)	1.10	平成9年度	同上	
経営政策専攻 博士後期課程	3	5	-	15	博士 (経営学)	0.33	平成11年度	同上	
外国語学研究科									
英語学専攻 修士課程	2	7	-	14	修士 (英語学)	0.28	平成9年度	同上	
国際文化協力専攻 修士課程	2	5	-	10	修士 (国際文化協力)	0.60	平成21年度	同上	
英語学専攻 博士前期課程 (通信教育課程)	2	20	-	40	修士 (英語学)	1.02	平成13年度	同上	
英語学専攻 博士後期課程 (通信教育課程)	3	3	-	9	博士 (英語学)	0.88	平成20年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成28年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
  - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

## 5 教員組織の状況

<国際文化学部 国際文化学科>

担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	曾我 良成	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 日本史 日本史概説 日本文化論 日本文化史 日本の思想 ※ 日本地域史論 ※ フィールドワーク 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	教授	黄 名時	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 中国文化入門 考古学入門 実践中国語1 実践中国語2 国際文化論 ※ 中国文化社会論 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	教授	近藤 泉	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 入門中国語1 入門中国語2 時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 日常中国語1 日常中国語2 日本のポップカルチャーとアジア 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	教授	土屋 勝彦	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 応用ドイツ語1 応用ドイツ語2 国際文化論 ※ グローバル社会文化論 ※ 比較文化・社会論1 ヨーロッパ文化総論 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	教授	土屋 勝彦	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 入門ドイツ語1 入門ドイツ語2 応用ドイツ語1 応用ドイツ語2 国際文化論 ※ グローバル社会文化論 ※ 比較文化・社会論1 ヨーロッパ文化総論 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(27)
専	教授	樋口 勇夫	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 コミュニケーション中国語1 コミュニケーション中国語2 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	教授	樋口 勇夫	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 基礎中国語1 基礎中国語2 時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 コミュニケーション中国語1 コミュニケーション中国語2 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(27)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	原田 寿美子	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー  時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 ビジュアル中国語 中国語検定読解入門 コンピュータ技法1 コンピュータ技法2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	教授	原田 寿美子	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 基礎中国語1 基礎中国語2 時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 ビジュアル中国語 中国語検定読解入門 コンピュータ技法1 コンピュータ技法2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(27)
専	教授	鹿毛 敏夫	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 日本史概説 日欧交流史 日本文化史 日本の思想 ※ 日本地域史論 ※ 日本アジア交流史 フィールドワーク 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	教授	Ray Thomas Donahue	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6 異文化コミュニケーション論 比較文化行動論 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	准教授	鈴木 啓司	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 応用フランス語1 応用フランス語2  比較文化・社会論2 ヨーロッパ地域文化論A 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	准教授	鈴木 啓司	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 応用フランス語1 応用フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2 比較文化・社会論2 ヨーロッパ地域文化論A 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
専	准教授	山本 淑雄	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー  時事ドイツ語1 時事ドイツ語2 ヨーロッパ地域文化論B ヨーロッパ地域文化論C 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	准教授	山本 淑雄	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2 時事ドイツ語1 時事ドイツ語2 ヨーロッパ地域文化論B ヨーロッパ地域文化論C 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(27)
専	講師	黒柳 志仁	平成27年4月	キリスト教概説 キリスト教 基礎セミナー 発展セミナー キリスト教文化論1 キリスト教文化論2 比較宗教論 宗教と平和 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	宮坂 清	平成29年4月	基礎セミナー 発展セミナー 社会学入門 宗教社会学 文化人類学入門 文化人類学 日本の民俗学 南アジア文化社会論 フィールドワーク 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	講師	吉田 達矢	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 世界の近現代史 世界史 東西交渉史 イスラム文化圏論 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	講師	柴崎 全弘	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 情報文化論 人間行動論 比較認知科学 比較社会心理学 フィールドワーク 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
兼任	教授	水野 晶夫	平成27年4月	ボランティア学 地域商業まちづくり学 地域商業まちづくり演習 上級まちづくり演習	兼任	教授	水野 晶夫	平成27年4月	ボランティア学 地域商業まちづくり学 地域商業まちづくり演習 上級まちづくり演習  現代経済入門	教学上の理由により未開講(28)  教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	教授	松永 公廣	平成27年4月	インターンシップ1 インターンシップ2						
兼任	教授	持田 辰郎	平成27年4月	哲学 哲学史						
兼任	教授	早川 厚一	平成27年4月	日本文学 日本文学史	兼任	教授	早川 厚一	平成27年4月	日本文学 日本文学史 日本語表現	教学上の理由により、当該科目の担当教員に変更(27)
兼任	教授	谷口 篤	平成27年4月	心理学概論 教育心理学概論1 教育心理学概論2 教育の方法と技術 教育相談	兼任	教授	谷口 篤	平成27年4月	心理学概論 教育心理学概論1 教育心理学概論2 教育の方法と技術 教育相談	教学上の理由により、担当を外れたが、中島准教授(兼任)、加藤講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	教授	今村 薫	平成27年4月	文明論 人類学 文化人類学入門						
兼任	教授	伊沢 俊泰	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会 グローバル経済論	兼任	教授	伊沢 俊泰	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会 グローバル経済論	教学上の理由により、黒田准教授(兼任)、村上准教授(兼任)に担当変更(27)
兼任	教授	増田 あゆみ	平成27年4月	国際関係論入門 国際政治学 環太平洋地域文化論 ※ 文化変容論 マイノリティ論 日本社会論						
兼任	教授	矢澤 雅	平成27年4月	現代社会と教育 教職論 教育原理 教育制度論 多文化教育論	兼任	教授	矢澤 雅	平成27年4月	現代社会と教育 教職論 教育原理 教育制度論 多文化教育論	教学上の理由により、松本准教授(兼任)に担当変更(27)
兼任	教授	宝島 格	平成27年4月	数学 数理科学 基礎統計学						
兼任	教授	秋元 浩一	平成27年4月	実用統計学						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	萩原 隆	平成27年4月	日本思想史						
兼任	教授	菅野 光公	平成27年4月	英米文化入門	兼任	講師	菅野 光公	平成28年4月	英米文化入門	契約満了による退職のため、兼任講師として担当(28)
兼任	教授	木村 光伸	平成27年4月	生態学 グローバル社会文化論 ※ 国際環境論 環太平洋地域文化論 ※ 文化交流論 世界遺産と保全 海外事情1 海外事情2 海外事情3 海外事情4						
兼任	教授	井澤 知且	平成27年4月	減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習  上級まちづくり演習	兼任	教授	井澤 知且	平成27年4月	地域商業まちづくり学 減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習  上級まちづくり演習	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27) 教学上の理由により、越智講師(兼任)に担当変更(27)  教学上の理由により、担当を外れたが、水野教授(兼任)、越智講師(兼任)、田中講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	教授	程 鵬	平成27年4月	情報処理基礎 情報概論						
兼任	教授	佐竹 眞明	平成27年4月	アジア言語入門1 国際文化論 ※ 多文化共生社会論 現代アジア文化社会論						
兼任	教授	Paul Dveraux McGrath	平成28年4月	英米文学概論1 英米文学講義1 英米文学講義2						
兼任	教授	米山 雅浩	平成28年4月	英米文学概論2						
兼任	准教授	大宮 有博	平成27年4月	ボランティア演習  死生学※ 人権と社会 生命倫理※ 道徳教育論	兼任	准教授	大宮 有博	平成27年4月	ボランティア演習  死生学※ 人権と社会 生命倫理※ 道徳教育論 ボランティア学 聖書と人間	割愛による退職のため、以下のとおり担当者変更(28) ボランティア演習:越智講師(兼任)、玉川准教授(兼任)、山下講師(兼任) 聖書と人間:杉本講師(兼任)、日沖講師(兼任) 教学上の理由により、ボランティア学は未開講(28) 教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)、生命倫理は亀井講師(兼任)の単独担当に変更。人権と社会は神田講師(兼任)に変更(27)  教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	准教授	金 愛慶	平成27年4月	臨床心理学 韓国文化社会論	兼任	教授 准教授	金 愛慶	平成28年4月	臨床心理学 韓国文化社会論	教授に昇任(28)
兼任	准教授	飯島 滋明	平成27年4月	平和学入門 平和学	兼任	教授 准教授	飯島 滋明	平成28年4月	平和学入門 平和学	教授に昇任。教学上の理由により、担当を外れるが、中原講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	准教授	中田 昭一	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2 実践中国語1 実践中国語2 現代中国事情 日中関係論						
兼任	准教授	新多 了	平成28年4月	留学英語中級						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	安藤 りか	平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b キャリアデザイン3a キャリアデザイン3b	兼任	准教授 講師	安藤 りか	平成28年4月 平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b キャリアデザイン3a キャリアデザイン3b	准教授に昇任(28) 教学上の理由により、キャリアデザイン1aは山崎講師(兼任)、キャリアデザイン1bは上本講師(兼任)・山崎講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	江利川 良枝	平成27年4月	キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	兼任	講師	江利川 良枝	平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	玉川 貴子	平成27年4月	死生学※	兼任	准教授 講師	玉川 貴子	平成28年4月 平成27年4月	死生学※ ボランティア演習	准教授に昇任(28) 教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)の単独担当に変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	講師	齊藤 久美子	平成27年4月	生物学						
兼任	講師	小林 記之	平成27年4月	地球科学概論 地球物理学概論 物理学 地球環境学	兼任	准教授 講師	小林 記之	平成28年4月	地球科学概論 地球物理学概論 物理学 地球環境学	准教授に昇任(28)
兼任	講師	伊藤 幹	平成27年4月	健康の科学 スポーツの科学 スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B スポーツ上級A スポーツ上級B						
兼任	講師	田中 智麻	平成27年4月	歴史観光まちづくり学 歴史観光まちづくり演習 上級まちづくり演習	兼任	講師	田中 智麻	平成27年4月	歴史観光まちづくり学 歴史観光まちづくり演習 上級まちづくり演習 インターンシップ1 インターンシップ2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	玉田 沙織	平成27年4月	日本語表現上級	兼任	講師	濱野 寛子	平成27年4月	日本語表現上級 日本語表現	玉田講師自己都合退職により、後任として科目を担当(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	川越 めぐみ	平成27年4月	日本語表現上級	兼任	講師	川越 めぐみ	平成27年4月	日本語表現上級	休職のため担当を外れたが、日本語表現上級は濱野講師(兼任)、永井講師(兼任)・堅田講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	工藤 泰三	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2	兼任	講師	工藤 泰三	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2 英語演習1 英語演習2 基礎英語1 基礎英語2	教学上の理由により、基礎英語1,2は石川講師(兼任)・小杉講師(兼任)・高橋講師(兼任)に担当変更(27) 教学上の理由により、担当を外れるが、ダナヒュー教授(専任)、石川講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、当該科目の担当教員を変更及び追加(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	市川 新剛	平成28年4月	留学英語上級	兼任	准教授 講師	市川 新剛	平成28年4月	留学英語上級	准教授に昇任(28)
兼任	講師	佐伯 奈津子	平成27年4月	アジア言語入門2						
兼任	講師	人見 泰弘	平成27年4月	文化マネジメント論 ジェンダー論 国際人権論						
兼任	講師	野尻 洋平	平成28年4月	メディア文化論	兼任	講師	野尻 洋平	平成27年4月 平成28年4月	メディア文化論 社会学入門	平成27年度より社会学入門を担当しているため就任予定年月を修正(28) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	石崎 程之	平成27年4月	現代経済入門	兼任	講師	石崎 程之	平成27年4月	現代経済入門	病気療養中につき、担当を外れるが、水野教授(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	北垣 創	平成27年4月	キリスト教と文学 キリスト教史						
兼任	講師	志村 真	平成27年4月	キリスト教と文化 宗教と人間 聖書と人間 比較宗教学	兼任	講師	志村 真	平成27年4月	キリスト教と文化 宗教と人間 聖書と人間 比較宗教学	教学上の理由により、担当を外れるが、日沖講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、宗教と人間・比較宗教学は村山講師(兼任)、聖書と人間は大宮准教授(兼任)・日沖講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	石田 聖実	平成28年4月	キリスト教倫理 キリスト教人間学						
兼任	講師	石井 邦博	平成28年4月	キャリアデザイン1a						
兼任	講師	丹山 美香	平成27年4月	キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	兼任	講師	丹山 美香	平成27年4月	キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	教学上の理由により、キャリアデザイン1bは上本講師(兼任)・山崎講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	加藤 智宏	平成27年4月	心理学概論						
兼任	講師	亀井 美穂	平成27年4月	死生学※ 生命倫理※	兼任	講師	亀井 美穂	平成27年4月	死生学※ 生命倫理※	教学上の理由により、担当を外れるが、文准教授(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)の単独担当に変更。生命倫理はオムニバスから単独担当に変更(27)
兼任	講師	玉木 満	平成27年4月	日本国憲法 現代社会と法律						
兼任	講師	中原 聖乃	平成27年4月	国際社会問題	兼任	講師	中原 聖乃	平成27年4月	国際社会問題 平和学	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	長 昌史	平成27年4月	化学						
兼任	講師	八木 三生	平成27年4月	陶芸論 陶芸演習 現代芸術論						
兼任	講師	稲垣 隆司	平成27年4月	環境科学	兼任	講師	杉山 範子	平成28年4月	環境科学	後任の教員を採用し、本年度より当該科目の担当(28) 本務の関係で科目担当ができず、未開講。次年度からの就任が難しいため、現在、後任(兼任)を選考中(27)
兼任	講師	米川 直樹	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級B	兼任	講師	米川 直樹	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	市野 聖治	平成28年4月	スポーツ中級A スポーツ中級B						
兼任	講師	河村 瑛子	平成27年4月	日本語表現	兼任	講師	河村 瑛子	平成27年4月	日本語表現	教学上の理由により、早川教授(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	永井 圭司	平成27年4月	日本語表現上級						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	野々山 富士江	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2 英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6	兼任	講師	野々山 富士江	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2 英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6	<p>教学上の理由により、基礎英語1.2は石川講師(兼任)・小杉講師(兼任)・高橋講師(兼任)に担当変更及び追加(27)</p> <p>教学上の理由により、英語演習1.2は工藤講師(兼任)・原口講師(兼任)・山之内講師(兼任)に担当変更及び追加(27)</p> <p>教学上の理由により、担当を外れるが、他の教員が担当するため教育上支障はない(28)</p>
兼任	講師	N. ルツ	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	N.ルツ	平成27年4月	英会話1 英会話2	<p>教学上の理由により、英会話1.2はダアノイ講師(兼任)・原口講師(兼任)・望月講師(兼任)・吉野講師(兼任)に担当変更及び追加(27)</p>
兼任	講師	M.A.ダアノイ	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	M.A.ダアノイ	平成27年4月	英会話1 英会話2 英語演習3 英語演習5 英語演習6	<p>教学上の理由により、担当を外れるが、英会話1は吉野講師(兼任)、小杉講師(兼任)が、英会話2は吉野講師(兼任)、小杉講師(兼任)、山之内講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)</p> <p>教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)</p>
兼任	講師	G. M. マクレラン	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	G. M. マクレラン	平成27年4月	英会話1 英会話2	<p>教学上の理由により、英会話1.2はダアノイ講師(兼任)・原口講師(兼任)・望月講師(兼任)・吉野講師(兼任)に担当変更及び追加(27)</p>
兼任	講師	保坂 和宣	平成27年4月	入門ドイツ語1 入門ドイツ語2 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2 実践ドイツ語1 実践ドイツ語2	兼任	講師	保坂 和宣	平成27年4月	入門ドイツ語1 入門ドイツ語2 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2 実践ドイツ語1 実践ドイツ語2	<p>教育効果を考慮し、入門ドイツ語1.2は土屋教授(専任)、基礎ドイツ語1.2は山本准教授(専任)に担当変更(27)</p>
兼任	講師	下村 武	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2	兼任	講師	下村 武	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2	<p>教学上の理由により、担当を外れるが、時事フランス語1.2は鈴木准教授(専任)、ルヌウ講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)</p>
兼任	講師	鈴木 球子	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 実践フランス語1 実践フランス語2	兼任	講師	鈴木 球子	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 実践フランス語1 実践フランス語2	<p>履修人数の減少により、入門フランス語1.2は鈴木准教授(専任)・湯浅講師(兼任)の2名に変更し、基礎フランス語1.2は鈴木准教授(専任)・河脇講師(兼任)の2名に担当変更(27)</p>
兼任	講師	重松 由美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	兼任	講師	重松 由美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	<p>教学上の理由により、担当を外れるが、時事スペイン語1.2は木下講師(兼任)、梅田講師(兼任)が、応用スペイン語1.2は内田講師(兼任)、渡辺講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)</p>
兼任	講師	寺澤 宏美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	兼任	講師	寺澤 宏美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	<p>教学上の理由により、入門スペイン語1.2は梅田講師(兼任)・木下講師(兼任)、基礎スペイン語1.2は内田講師(兼任)・櫻井講師(兼任)に担当変更(27)</p>
兼任	講師	史念	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2 中国社会経済論 アジアの商習慣 アジア就業事情	兼任	講師	史念	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2 中国社会経済論 アジアの商習慣 アジア就業事情	<p>履修人数の減少により、入門中国語1.2は近藤教授(専任)・中田准教授(兼任)に担当変更(27)</p>

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	王 麗英	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	兼任	講師	王 麗英	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	教育効果を考慮し、基礎中国語1.2は原田教授(専任)・樋口教授(専任)に担当変更(27)
兼任	講師	陳 泰銀	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	兼任	講師	陳 泰銀	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	
兼任	講師	金 檉	平成27年4月	入門韓国語1 入門韓国語2 基礎韓国語1 基礎韓国語2						
兼任	講師	今村 彩子	平成27年4月	手話入門 手話基礎						
兼任	講師	犬塚 文雄	平成28年4月	特別活動論	兼任 兼任	教授 講師	犬塚 文雄	平成28年4月	特別活動論	兼任教授として採用(28)
兼任	講師	永田 国豊	平成28年4月	生徒・進路指導論						
兼任	講師	吉野 勇夫	平成28年4月	国際文化理解英語1 国際文化理解英語2 ビジネス英語1 ビジネス英語2 アメリカ社会文化論 アメリカ政治経済論 グローバル・ビジネス・コミュニケーション	兼任	講師	吉野 勇夫	平成28年4月	国際文化理解英語1 国際文化理解英語2 ビジネス英語1 ビジネス英語2 アメリカ社会文化論 アメリカ政治経済論 グローバル・ビジネス・コミュニケーション 英会話1 英会話2	教学上の理由により、当該科目の担当者を変更及び追加(27)
兼任	講師	山之内 健太	平成27年4月	TOEIC英語入門 TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2 TOEIC英語実践1 TOEIC英語実践2	兼任	講師	山之内 健太	平成27年4月	TOEIC英語入門 TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2 TOEIC英語実践1 TOEIC英語実践2 英語演習1 英語演習2 基礎英語1 英会話2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6	教学上の理由により、以下のとおり担当者を変更(28) TOEIC英語入門:原口講師(兼任) TOEIC英語基礎1.2:高橋講師(兼任) 英語演習1.2:ダナヒュー教授(専任)、石川講師(兼任) 教学上の理由により、当該科目の担当者を変更及び追加(27)  教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	イラリオ ロサリオ	平成28年4月	時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	兼任	講師	イラリオ ロサリオ	平成28年4月	時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	教学上の理由により、担当を外れるが、時事スペイン語1.2は木下講師(兼任)、梅田講師(兼任)が、応用スペイン語1.2は内田講師(兼任)、渡辺講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	原口 智子	平成27年4月	英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6	兼任	講師	原口 智子	平成27年4月	英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6 英会話1 英会話2 基礎英語2 TOEIC英語入門	教学上の理由により、担当を外れるが、他の教員が担当するため教育上支障はない(28)  教学上の理由により、当該科目の担当者を変更及び追加(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	森 正己	平成28年4月	観光文化論	兼任	准教授	山本 真嗣	平成28年4月	観光文化論	教学上の理由により、森講師(兼任)より担当者変更(28)
兼任	講師	望月 節子	平成28年4月	英文学史 米文学史	兼任	講師	望月 節子	平成28年4月	英文学史 米文学史 英会話1 英会話2	教学上の理由により、担当を外れるが、英会話1は吉野講師(兼任)、小杉講師(兼任)が、英会話2は吉野講師(兼任)、小杉講師(兼任)、山之内講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、当該科目の担当者を変更及び追加(27)
兼任	講師	有田 義之	平成28年4月	地中海文化圏論						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	林 上	平成27年4月	国際地理論						
					兼任	教授	岡澤 憲一郎	平成27年4月	社会学入門 宗教社会学	定年退職により、担当を外れたが、社会学入門は宮坂講師(専任)、早川教授(兼任)、野尻講師(兼任)が、宗教社会学は宮坂講師(専任)が担当するため教育上支障はない(28)教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	教授	早川 洋行	平成27年4月	社会学入門	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	教授	津田 誠	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B	教学上の理由により、担当を外れるが、他の教員(4名)が担当するため教育上支障はない(28)教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	中島 誠	平成27年4月	心理学概論	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	榎澤 幸広	平成27年4月	日本国憲法 現代社会と法律	教育効果を考慮し、担当教員を追加(27)
					兼任	准教授	黒田 知宏	平成27年4月	現代社会と経済	教学上の理由により、伊沢教授(兼任)から担当変更(27)
					兼任	准教授	村上 寿来	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	松本 浩司	平成27年4月	現代社会と教育	教学上の理由により、矢澤教授(兼任)から担当変更(27)
					兼任	准教授	濱 満久	平成27年4月	地域商業まちづくり学	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	山下 匡将	平成27年4月	ボランティア演習	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	越智 祐子	平成27年4月	減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習 上級まちづくり演習 ボランティア演習	教学上の理由により、井澤教授(兼任)から担当変更(27)教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	講師	山崎 直美	平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b	教学上の理由により、担当を外れるが、キャリアデザイン1aは江利川講師(兼任)、石井講師(兼任)が、キャリアデザイン1bは江利川講師(兼任)、上本講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)教学上の理由により、安藤講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	上本 裕子	平成27年4月	キャリアデザイン1b	教学上の理由により、丹山講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	日沖 直子	平成27年4月	聖書と人間 キリスト教と文化 宗教と人間 比較宗教学	教学上の理由により、志村講師(兼任)から担当変更(27)教学上の理由により、志村講師(兼任)から担当変更(28)教学上の理由により、村山講師(兼任)から担当変更(28)教学上の理由により、村山講師(兼任)から担当変更(28)
					兼任	講師	村山 由美	平成27年4月	死生学 宗教と人間 比較宗教学	教学上の理由により、担当を外れたが、死生学は文准教授(兼任)が、宗教と人間、比較宗教学は日沖講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)教学上の理由により、大宮講師(兼任)他のオムニバスを変更し、単独で科目を担当(27)教学上の理由により、志村講師(兼任)から担当変更(27)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	神田 浩史	平成27年4月	人権と社会	教学上の理由により、大宮講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	上野 史朗	平成27年4月	日本史	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	坪田 暢允	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B	教学上の理由により、担当を外れるが、他の教員(4名)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	小杉 花代	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2 英会話1 英会話2 英語演習5 英語演習6	教学上の理由により、担当を外れるが、基礎英語1は工藤講師(兼任)、山之内講師(兼任)が、基礎英語2は工藤講師(兼任)、原口講師(兼任)担当するため、教育上支障はない(28) 教学上の理由により、工藤講師(兼任)、野々山講師(兼任)から担当変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	講師	高橋 美由紀	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2 TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2	教学上の理由により、担当を外れるが、基礎英語1は工藤講師(兼任)、山之内講師(兼任)が、基礎英語2は工藤講師(兼任)、原口講師(兼任)担当するため、教育上支障はない(28) 教学上の理由により、工藤講師(兼任)、野々山講師(兼任)から担当変更(27) 教学上の理由により、山之内講師(兼任)から担当変更(28)
					兼任	講師	石川 香代子	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2 英語演習1 英語演習2	教学上の理由により、担当を外れるが、基礎英語1は工藤講師(兼任)、山之内講師(兼任)が、基礎英語2は工藤講師(兼任)、原口講師(兼任)担当するため、教育上支障はない(28) 教学上の理由により、工藤講師(兼任)、野々山講師(兼任)から担当変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	講師	湯浅 康正	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2	教学上の理由により、担当を外れるが、鈴木准教授(専任)、ルヌウ講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 履修人数の減少により、下村講師(兼任)、鈴木講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	河脇 都美	平成27年4月	基礎フランス語1 基礎フランス語2 応用フランス語1 応用フランス語2	履修人数の減少により、下村講師(兼任)、鈴木講師(兼任)から担当変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	講師	梅田 美代子	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更(27) 教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当変更(28)
					兼任	講師	木下 智統	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更(27) 教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当変更(28)
					兼任	講師	内田 千重子	平成27年4月	基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更(27) 教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当変更(28)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	櫻井 里香	平成27年4月	基礎スペイン語1 基礎スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	教授	家本 博一	平成28年4月	インターンシップ1 インターンシップ2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	准教授	文 禎顕	平成28年4月	死生学 生命倫理	教学上の理由により、村山講師(兼任)より担当変更(28) 教学上の理由により、亀井講師(兼任)より担当変更(28)
					兼任	講師	白井 徹	平成28年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B	教学上の理由により、津田教授(兼任)より担当変更(28)
					兼任	講師	Loikku Lunu	平成28年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2	教学上の理由により、湯浅講師(兼任)より担当変更(28) 教学上の理由により、下村講師(兼任)より担当変更(28)
					兼任	講師	鬼頭 伸和	平成28年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B	教学上の理由により、坪田講師(兼任)より担当変更(28)
					兼任	講師	堅田 陽子	平成28年4月	日本語表現上級	川越講師(兼任)の休職のため、担当変更(28)
					兼任	講師	杉本 和道	平成28年4月	キリスト教倫理 聖書と人間	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28) 大宮准教授(兼任)の割愛による退職のため、担当変更(28)
					兼任	講師	渡辺 有美	平成28年4月	応用スペイン語1 応用スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当変更(28)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。  
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
  - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
  - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成28年5月1日現在の満年齢を記入してください。
  - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」,「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**,当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」,変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。  
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。

専任教員数

(2) - ① 専任教員数

設置時の計画					現在(報告書提出時)の状況					現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
8	2	4	0	14	8	2	4	0	14	8	2	4	0	14
										[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。  
 ・ 「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: △1)

(2) - ② 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告書提出時(上記(A))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(B))の教員うち、定年を延長して採用する教員数
70	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成28年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
						該当なし				
合計（A）					後任補充状況の集計（B）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
						該当なし				
合計（C）					後任補充状況の集計（D）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した**全ての専任教員**の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（A）+（C）				後任補充状況の集計（B）+（D）					
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注)・上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
該当なし。			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

## 7 その他全般的事項

### <国際文化学部 国際文化学科>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし。	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

##### ① 実施体制

###### a 委員会の設置状況

別添「FD委員会規程」に基づき、全学的なFD委員会の下部組織に、国際文化学部FD委員会を設置している。国際文化学部FD委員会の構成は学部長を委員長とし、4名の専任教員（教務委員と同一）により構成する。

###### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

《国際文化学部FD委員会開催状況及び教員の参加状況》

2015年度：8回（学部開設時の予定に則して学部教務委員会開催に合わせて検討会を実施している）。またFD委員会の方針と学部長の指示により、学部教授会終了後に4回の教員検討会を実施し、入学時から授業の進捗に応じて学生たちの動向を教員が共有し、問題行動があれば全体で分析し、学部教育の方向性を教員全体の問題として共有する機会を持った。これらにはほぼ全員の教員が参加している。

###### c 委員会の審議事項等

《2015年度 国際文化学部FD委員会 審議事項》

- ・ 基礎セミナー、発展セミナーを中心に、学生を担当するアドバイザー教員がゼミ所属学生と密接にコンタクトできる状況を構築し、学生の学修に対する不安等を解消するとともに、将来へ向けた学習計画づくりをサポートできる体制をどのように作るか。
- ・ 離籍対象学生、学修困難学生等、指導上問題のある学生への対応
- ・ 届出に明示した授業計画に沿った授業展開のための教員間の調整

##### ② 実施状況

###### a 実施内容

学部FD委員会・学部教務委員会で確認した事項について、学部教授会及びその後開催された教員意見交換会等において、国際文化学部としてのFD活動のあり方について全教員に周知し、徹底した。それを受けて、下記の各項目について実施した。

- ①全教員がオフィス・アワーを設定した。
- ②授業アンケートの実施。
- ③クラスアドバイザー教員による学生面談指導の実施。

###### b 実施方法

2015年度は、aで記載した内容に関して、

- ①全教員がオフィス・アワーを設け、学生と随時面談指導する場を設定した。
- ②教務部の基本方針に沿って、セメスターごとに授業アンケートを実施した。
- ③2015年度は開設後の学年進行の予定に沿って、学部専門科目がまだ1年次対象の少数科目しか開講されていなかったため、教員相互の授業参観等の改善活動は実施せず、翌年度以降とした。
- ④クラスアドバイザー教員が随時学生と面談しつつ、学生支援課、学生相談室と連携して、学習相談、進路への迷いという学生が学修上抱える問題点についてのフォローを実施した。

###### c 開催状況（教員の参加状況含む）

学部のFD活動のあり方については、上記記載の通り、学部FD委員会（学部教務委員会）が主導しつつ、学部長の判断により、学部教授会の際に頻繁に教育改善の依頼を行うとともに、随時、教員からの授業状況や問題点の指摘・相談を受け、全教員で議論する機会を持った。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

授業は、教員と学生の共同作業によって成立するという大前提を全教員が各自、自覚することで、授業における学生への働きかけを重視する機会が増加した。また、それぞれの授業の中での取り組みを全教員間で紹介し、議論することが可能となり、授業の密実化が防止されつつある。2015年度は1年生しか在籍していなかったので、セミナー単位の授業を複数回にわたって合同開催し、外部指導者を多数招いて実践的な指導を実施した。これは国際文化学部の学習内容の特色づくりとして大変有効であり、また学生が学外へ目を向け、多くの国際的な組織との連携を模索し始める契機ともなった。このような機会にも担当教員のみならず、担当分野外の多くの教員（内容により30～90%の出席率）の参加が得られた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

《2015年度 授業アンケート実施状況》

春学期：6月

秋学期：11月～12月

b 教員や学生への公開状況、方法等

教職員、学生とも、担当部署（学生支援課・瀬戸キャンパス総合事務部）にて閲覧することが出来る。教員は自身の担当科目を、学内イントラネットでも閲覧出来る。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学国際文化学部は文部科学省が推進するグローバル人材の養成を最大の目標として開設された。我が国においては「グローバル人材育成戦略」（平成24年6月）が指摘するように、豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身に付け、国際的に活躍できる人材の育成が喫緊の課題となっている。このような課題認識に従い、名古屋学院大学では国際化教育の再構築を目指し、既設の外国語学部英米語学科における国際英語教育と並行して平成27年4月に国際文化学部を設置し、国際文化理解と国際文化協力に基づくグローバル人材養成を図る課程を置いた。グローバル化が進む21世紀は、地域的利害や宗教意識がもたらす様々な地域紛争を引き起こし、地球全体を不安定な状態に置きつつある。また、20世紀に地球規模で顕在化した環境問題、世界を同時に巻き込むように進行する経済的混乱など、世界のあらゆる地域に暮らす人間が等しく地球人として協働し、持続可能な発展に対する妨げも山積している。それ故、様々な社会事情や国際関係、あるいは海外諸言語を個別に学ぶだけでは、真の国際性を有するグローバル人材となることは困難である。すなわち、国際社会の置かれた現状、それぞれの国・地域における文化のあり方や地域固有の生活、教育環境・歴史認識・文化遺産・宗教意識など多様な知識の集積が必要であり、かつ地域的課題やグローバルな諸問題を見出し、その実態を理解し、問題解決につながる積極的な行動力も求められる。また、本学が位置する中部圏においては、国際的なマーケットで活躍する多数の企業が存在し、海外進出を希望する企業も増加の一途を辿っている。その一方で、中部圏は国内的に外国人就労者数の最も多い地域の一つでもあることから、多文化交流を意識的に促進する必要がある。こうした地域の状況から見て、海外進出企業で活躍できる人材、自治体などで国際業務に対応できる人材、国際文化事業や国際協力事業を推進する人材へのニーズは今後ますます増大すると考えられる。

以上のような社会的要請に応えるために、本学は26年に及ぶ外国語学部における教育研究、とりわけ中国コミュニケーション学科および国際文化協力学科の教育実績を踏まえ、両学科を基礎として新たに国際文化学部を設置した。国際文化学部は、建学の精神である「敬神愛人」をバックボーンとして、優れた外国語運用能力とともに、多文化間の相互理解と交流、さらには文化的支援に主力を置いた国際協力を通して、グローバルに活躍する人材を育成することを目的とし、真剣な他者理解の感覚と実践力を持って国際的場面で活躍できる人材の育成を明確に追及していく。具体的な学修目標として、以下の諸点を明示している。

- ①グローバル社会に生起する様々な問題についての確に対応できる多文化理解と持続的社會形成のための思考力・判断力・行動力を身に付ける。
- ②グローバルに展開する社会・経済・文化の持続的発展に貢献する豊かな教養と人間性を養う。
- ③日本文化の基礎を確実に身に付け、多文化理解における比較文化の視点を明確に持たせる。
- ④多様な文化的世界において、自己の考え方を相手に正しく説明し、また、相手の意見を十分に理解するコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身に付ける。

このように、国際文化学部の扱う領域は、グローバル社会とは何かという大きな問題意識の下、国際社会の個別地域を対象とした歴史・文化を中心に、社会・政治・経済・宗教・環境など極めて多岐にわたる。そこで、国際文化学部は、「国際理解」及び「多文化交流」を中心に展開する国際文化学科と、「文化協力」及び「文化支援」を念頭に置いて国際文化理解教育を実践する国際協力学科の2学科体制とし、学修の方向性を明確に示している。これら学部教育の目標は履修要綱、シラバスに明確に記載されており、またオリエンテーションを通して学生に徹底された。同時に教員に対してもFD活動、教員の意見交換会などを通して自覚を促し、学部教員全体で教育活動の目標達成への努力を続けている。

2015年度は第1期生として入学した学生を対象として、上記の設置の趣旨・目標に合致した教育を推進するために、入学前教育として「自己の発見」プログラムを導入し、まずは大学生として社会と向き合うための仲間づくり、大学において行われる授業への取り組みの自己認識などの指導から教育活動を開始した。さらに入学後、正規の授業開始までの期間を活用したオリエンテーションで、ゼミ（基礎セミナー）単位での行動を実践させるために名古屋市周辺の国際的な機関、施設などを訪問したり、外国人との対話機会を持つなど、国際文化理解、国際協力活動への積極的な接近体験を持たせてから、正規の授業プログラムへと誘導した。その成果は4月末に学部全体の合同発表会を開催して学生・教職員が共有した。1年生の授業の骨格として春学期は「基礎セミナー」、秋学期は「発展セミナー」を配置し、必修専門科目の「国際文化論」「日本文化論」「英語演習1・2」等と連携しながら、学部の教育目標へ学生の意識を近づける努力を行った。その際に、ゼミの垣根を超えて学部、学科単位で外部指導者による教育活動を実施し、また文化的活動イベントを課外時間に設けるなど、広く文化、国際関係の実際に触れるような教育機会を挿入することで、全学生に対して国際的視野を持たせる一助とした（全体で年間10回開催）。また、本学部の特色のひとつである野外体験、実践体験の関わる授業として、国際文化学科では「フィールドワーク」を実施し、本学瀬戸キャンパスのある瀬戸市を調査対象地として地域文化・産業の調査実習を中心に、これまで経験したことのない文化調査体験をそれぞれの学習者に持たせることができた。本授業では、学生の取りまとめにより報告会を実施するとともに「成果報告書」を完成させて、学内外に配布している。学部開設初年度の活動として、教職員の学部目標への意識付けができたこと、学生が主体的な学びの必要性に気づく機会を多く提供できたことなど、2年目以降へつながる流れが形成されつつあると自己評価しているが、初年度の経験をいかに第2年目の入学性に伝達し、共有できるか、また教員の自覚がどこまで維持し、発展し続けられるかが、これからの課題であると認識している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成28年10月 公表予定

b 公表方法

自己点検・評価報告書『名古屋学院大学の現状と課題』を刊行し、学内外に配布及びホームページで公表する。

③ 認証評価を受ける計画

財団法人大学基準協会の相互評価及び認証評価を受け、平成24年3月に、「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2019（平成31）年3月31日までとする。」との結果を受領している。平成30年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受ける予定である。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（4）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

( 有 ・  無 )

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

( 年 月 日 )

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人名古屋学院大学

## (2) 大学名

名古屋学院大学

## (3) 大学の位置

名古屋キャンパス白鳥学舎

〒456-8612

愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号

名古屋キャンパス日比野学舎

〒456-0062

愛知県名古屋市熱田区大宝三丁目1番17号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イナガキ タカシ) 稲垣 隆司 (平成24年8月)	(スエヤス ケンジ) 末安 堅二 (平成27年8月)	任期満了のため変更 平成27年8月3日(28)
学長	(キブネ ヒサオ) 木船 久雄 (平成23年4月)		
学部長	(キムラ コウシン) 木村 光伸 (平成27年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成26年度に報告済の内容 → (26)

平成28年度に報告する内容 → (28)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。  
 ・ 様式は, 平成25年度開設の4年制の学科の場合(平成28年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
国際文化学部 国際協力学科 学士(国際文化)	4年	50人	年次 -人	200人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 50 ( ) [ ]	人 - ( ) [ ]	人 50 ( ) [ ]	人 - ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	0.65倍	
志願者数	161 ( ) [ ]	- ( ) [ ]	104 ( ) [ ]	- ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
受験者数	156 ( ) [ ]	- ( ) [ ]	101 ( ) [ ]	- ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
合格者数	125 ( ) [ ]	- ( ) [ ]	84 ( ) [ ]	- ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
B 入学者数	43 ( ) [ ]	- ( ) [ ]	22 ( ) [ ]	- ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
入学定員超過率 B/A	0.86		0.44							

- (注) ・ 数字は, 平成28年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( ))書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[ 1 ] ( - ) 43	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) 22	[ - ] ( - ) -	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	平成27年度に除籍1名となり、平成28年度入学生を含め64名になった(28)
2年次	/		[ 1 ] ( - ) 42	[ - ] ( - ) -	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次	/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
4年次	/		/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
計	[ 1 ] ( - ) 43	[ - ] ( - )	[ 1 ] ( - ) 64	[ - ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成27年度 入学者	43 人	1 人	平成27年度	1 人	0 人	家庭の事情(1人)	2.3 %
			平成28年度	0 人	0 人		
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
平成28年度 入学者	22 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人		0.0 %
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
平成29年度 入学者	人	0 人	平成29年度	人	人		%
			平成30年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		%
合 計	65 人	1 人					1.5 %

(注)・数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成28年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

## 2 授業科目の概要

<国際文化学部 国際協力学科>

### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手					
N G U 教 養 ス タ ン ダ ー ド 科 目	キリスト教	キリスト教概説	1前	2								兼1			
		キリスト教	1後	2									兼1		
		キリスト教と文学	2・3・4前		2								兼1		
		キリスト教と文化	2・3・4後		2								兼1		
		キリスト教倫理	2・3・4前		2								兼2 兼1	教育効果を考慮し、杉本講師(兼任)を担当者として追加(28)	
		キリスト教史	1・2・3・4後		2									兼1	
	自己理解と自己開発	基礎セミナー	1前	2			4 3	1	3					石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)	
		発展セミナー	1後		2		4 3	1	3					石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)	
		キャリアデザイン1a	1前		2									兼1 兼2	履修人数の減少により担当者数を変更(27)
		キャリアデザイン1b	1後		2									兼1 兼2	履修人数の減少により担当者数を変更(27)
		キャリアデザイン2a	2前		2									兼3	
		キャリアデザイン2b	2後		2									兼3	
		キャリアデザイン3a	3前		2									兼1	
		キャリアデザイン3b	3後		2									兼1	
		ボランティア学	未開講 1・2・3・4前		2									兼2 兼1	教学上の理由により、未開講(28) 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		ボランティア演習	1・2・3・4後		2									兼3 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27) 集中(28) ※実習
	インターンシップ1	1・2・3・4前・後		2									兼3 兼1	教育効果を考慮し、家本教授(兼任)、田中講師(兼任)を担当者として追加(28) 集中	
	インターンシップ2	1・2・3・4前・後		2									兼3 兼1	教育効果を考慮し、家本教授(兼任)、田中講師(兼任)を担当者として追加(28) 集中	
	社会的教養	人間理解	哲学	1・2・3・4前		2								兼1	
			哲学史	1・2・3・4後		2								兼1	
日本文学			1・2・3・4前		2								兼1		
日本文学史			1・2・3・4後		2								兼1		
心理学概論		1・2・3・4前・後		2									兼2 兼3 兼2	教学上の理由により、谷口教授(兼任)が担当を外れたが、中島准教授(兼任)、加藤講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
文明論		1・2・3・4後		2									兼1		
宗教と人間		1・2・3・4前 1・2・3・4後		2									兼1	教育効果を考慮し、開講時期を変更(27)	
聖書と人間		1・2・3・4前		2									兼2 兼1	教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)	
キリスト教人間学		2・3・4前		2									兼1		
死生学		1・2・3・4前		2									兼1 兼3	教学上の理由により、兼任講師1名に担当変更(27) オムニバス	
臨床心理学		1・2・3・4前・後		2									兼1		
社会理解		社会学入門	1・2・3・4前		2									兼3 兼4 兼1	定年退職により、岡澤教授(兼任)が担当を外れたが、宮坂講師(兼任)、早川教授(兼任)、野尻講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		宗教社会学	1・2・3・4前・後		2									兼1 兼2 兼1	岡澤教授(兼任)が担当を外れたが、宮坂講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		比較宗教学	1・2・3・4後		2									兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4前・後		2									兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	現代社会と法律	1・2・3・4前・後		2									兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
N G U 教 養 社 会 的 教 養 グ ラ ド コ 目	現代社会と経済	1・2・3・4前・後		2								兼2 兼1 兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を変更及び追加(27)	
	企業と社会	1・2・3・4前・後		2								兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	国際関係論入門	1・2・3・4後		2		1								
	国際政治学	1・2・3・4前		2		1								
	国際社会問題	1・2・3・4前・後		2								兼1 兼2 兼1	教学上の理由により、吉田講師(兼任)が担当を外れるが、中原講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	現代社会と教育	1・2・3・4後		2		1						兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	平和学入門	1・2・3・4前・後		2								兼1		
	人権と社会	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後		2								兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(27)	
	自然理解	数学	1・2・3・4前		2								兼1	
		数理学	1・2・3・4後		2								兼1	
		基礎統計学	1・2・3・4前		2								兼1	
	自然理解	実用統計学	1・2・3・4後		2								兼1	
		化学	1・2・3・4前		2								兼1	
		生物学	1・2・3・4前・後		2								兼1	
		地球科学概論	1・2・3・4前		2								兼1	
		地球物理学概論	1・2・3・4後		2								兼1	
		人類学	1・2・3・4前		2								兼1	
		物理学	1・2・3・4後		2								兼1	
		生命倫理	1・2・3・4後		2								兼1 兼2	教学上の理由により、兼任講師1名に担当変更(27) オムニバス
		歴史文化理解	日本史	1・2・3・4前		2								兼2 兼1
	日本思想史		1・2・3・4前・後		2								兼1	
	中国文化入門		1・2・3・4前		2								兼1	
	英米文化入門		1・2・3・4後		2								兼1	集中(28)
	文化人類学入門		1・2・3・4後		2								兼2	
	世界の近現代史		1・2・3・4前		2								兼1	
	世界史		1・2・3・4後		2								兼1	
	考古学入門		1・2・3・4後		2								兼1	
	陶芸論		1・2・3・4前		2								兼1	
	陶芸演習		1・2・3・4後		2								兼1	集中(28)
	環境理解	環境科学	1・2・3・4前		2								兼1	未開講(27) 集中(28)
		生態学	1・2・3・4前・後		2		1							
		地球環境学	1・2・3・4前		2								兼1	
身体理解	健康の科学	1・2・3・4前・後		2								兼1		
	スポーツの科学	1・2・3・4前・後		2								兼1		
	スポーツ初級A	1・2・3・4前・後		1								兼4 兼2	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	スポーツ初級B	1・2・3・4後 1・2・3・4前・後		1								兼4 兼2	教学上の理由により、開講時期を変更。 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	スポーツ中級A	2・3・4前・後		1								兼5 兼2	教育効果を考慮し、白井講師(兼任)、米川講師(兼任)、鬼頭講師(兼任)を担当者として追加(28)	
	スポーツ中級B	2・3・4前・後		1								兼5 兼3	教育効果を考慮し、白井講師(兼任)、鬼頭講師(兼任)を担当者として追加(28)	
	スポーツ上級A	3・4前・後		1								兼1		
スポーツ上級B	3・4後		1								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
社会的 教養	地域理解	地域商業まちづくり学	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後		2							兼3 兼1 教学上の理由により、開講時期を変更。 教育効果を考慮し、担当者を追加(27) オムニバス(28)	
		歴史観光まちづくり学	1・2・3・4前・後		2							兼1	
		減災福祉まちづくり学	1・2・3・4前・後		2							兼1	
		地域商業まちづくり演習	1・2・3・4後		2							兼1	
		歴史観光まちづくり演習	1・2・3・4後		2							兼1	
		減災福祉まちづくり演習	1・2・3・4後		2							兼1	
		上級まちづくり演習	2・3・4前後		2							兼3	
N G U 教 養 ス タ ン ダ ー ド 科 目	言語とコミュニケーション	日本語表現	1前・後		2							兼1	
		日本語表現上級	1前・後		2							兼3	
		基礎英語1	1前		1			1				兼1	
		基礎英語2	1後		1				1			兼1	
		英会話1	1前		1							兼1 兼2 兼3 教学上の理由により、望月講師(兼任)が 担当から外れるが、吉野講師(兼任)が 担当するため教育上支障はない(28) 履修人数の減少により担当者数を変更 (27)	
		英会話2	1後		1							兼1 兼2 兼3 教学上の理由により、望月講師(兼任)が 担当から外れるが、吉野講師(兼任)が 担当するため教育上支障はない(28) 履修人数の減少により担当者数を変更 (27)	
		入門ドイツ語1	1前		1							兼1	
		入門ドイツ語2	1後		1							兼1	
		基礎ドイツ語1	1前		1							兼1	
		基礎ドイツ語2	1後		1							兼1	
		入門フランス語1	1前		1							兼2 兼3 履修人数の減少により担当者数を変更 (27)	
		入門フランス語2	1後		1							兼2 兼3 履修人数の減少により担当者数を変更 (27)	
		基礎フランス語1	1前		1							兼2 兼3 履修人数の減少により担当者数を変更 (27)	
		基礎フランス語2	1後		1							兼2 兼3 履修人数の減少により担当者数を変更 (27)	
		入門スペイン語1	1前		1							兼2	
		入門スペイン語2	1後		1							兼2	
		基礎スペイン語1	1前		1							兼2	
		基礎スペイン語2	1後		1							兼2	
		入門中国語1	1前		1				1			兼1 兼2 兼3 当初2名の予定であったが3名と誤記載。 履修人数の減少により担当者数を変更 (27)	
		入門中国語2	1後		1				1			兼1 兼2 兼3 当初2名の予定であったが3名と誤記載。 履修人数の減少により担当者数を変更 (27)	
		基礎中国語1	1前		1							兼2	
		基礎中国語2	1後		1							兼2	
		入門韓国語1	1前		1							兼1	
		入門韓国語2	1後		1							兼1	
		基礎韓国語1	1前		1							兼1	
		基礎韓国語2	1後		1							兼1	
		手話入門	1後 1前		1							兼1 教学上の理由により、開講時期を変更 (27)	
		手話基礎	1後		1							兼1	
		理 情 解 報	情報処理基礎	1前		2							兼1
			情報概論	2後		2							兼1
教 職	教職論	1後		2			1						
	教育原理	1後		2			1						
	教育心理学概論1	1前		2							兼1		
	教育心理学概論2	1後		2							兼1		
	教育制度論	1前		2			1						
	特別活動論	2前		2							兼1		
	教育の方法と技術	2後		2							兼1		
	道徳教育論	2後		2							兼1		
	生徒・進路指導論	2後		2							兼1		
	教育相談	2前		2							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
学 部 共 通 科 目	国際文化理解英語1	2前		1								兼1	
	国際文化理解英語2	2後		1								兼1	
	留学英語中級	2後 2前		1								兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(28)
	留学英語上級	2前 2後		1								兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(28)
	TOEIC英語入門	1後		1								兼1	
	TOEIC英語基礎1	2前		1								兼1	
	TOEIC英語基礎2	2後		1								兼1	
	TOEIC英語実践1	2前		1								兼1	
	TOEIC英語実践2	2後		1								兼1	
	ビジネス英語1	2前		1								兼1	
	ビジネス英語2	2後		1								兼1	
	時事ドイツ語1	2前		1								兼1	
	時事ドイツ語2	2後		1								兼1	
	応用ドイツ語1	2前		1								兼1	
	応用ドイツ語2	2後		1								兼1	
	実践ドイツ語1	3前		1								兼1	
	実践ドイツ語2	3後		1								兼1	
	時事フランス語1	2前		1								兼2 兼1	教育効果を考慮し、鈴木准教授(兼任)を担当者として追加(28)
	時事フランス語2	2後		1								兼2 兼1	教育効果を考慮し、鈴木准教授(兼任)を担当者として追加(28)
	応用フランス語1	2前		1								兼2 兼1	教育効果を考慮し、河脇講師(兼任)を担当者として追加(28)
	応用フランス語2	2後		1								兼2 兼1	教育効果を考慮し、河脇講師(兼任)を担当者として追加(28)
	実践フランス語1	3前		1								兼1	
	実践フランス語2	3後		1								兼1	
	時事スペイン語1	2前		1								兼2 兼3	教学上の理由により、担当者を変更(28)
	時事スペイン語2	2後		1								兼2 兼3	教学上の理由により、担当者を変更(28)
	応用スペイン語1	2前		1								兼2 兼3	教学上の理由により、担当者を変更(28)
	応用スペイン語2	2後		1								兼2 兼3	教学上の理由により、担当者を変更(28)
	実践スペイン語1	3前		1								兼3	
	実践スペイン語2	3後		1								兼3	
	時事中国語1	2前		1								兼3	
	時事中国語2	2後		1								兼3	
	応用中国語1	2前		1								兼3	
	応用中国語2	2後		1								兼3	
	実践中国語1	3前		1				1				兼1	
	実践中国語2	3後		1				1				兼1	
	コミュニケーション中国語1	1前		1								兼1	
	コミュニケーション中国語2	1後		1								兼1	
	ビジュアル中国語	2後		1								兼1	
	日常中国語1	2前		1								兼1	
	日常中国語2	2後		1								兼1	
中国語検定読解入門	3前		1								兼1		
アジア言語入門1	2前		1				1				兼1		
アジア言語入門2	2後		1					1			兼1		
コンピュータ技法1	2前		2								兼1		
コンピュータ技法2	2後		2								兼1		
国際理解科目	国際文化論	1前	2				1					兼2	オムニバス
	キリスト教文化論1	2前		2								兼1	
	キリスト教文化論2	2後		2								兼1	
	文化人類学	1前		2								兼1	
	グローバル社会文化論	1後		2			1					兼1	オムニバス
	日本史概説	1前		2								兼2	
	日本文化論	1後		2								兼1	
	比較宗教論	2前		2								兼1	
	宗教と平和	2後		2								兼1	
	国際環境論	2前		2			1					兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
学 科 基 幹 科 目	英語演習1	1前	1					1			兼1 兼2	教学上の理由により、担当者を変更(28) 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	英語演習2	1後	1					1			兼1 兼2	教学上の理由により、担当者を変更(28) 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	英語演習3	2前	1					1			兼2	教育効果を考慮し、山之内講師(兼任)、 小杉講師(兼任)を担当者として追加(28)	
	英語演習4	2後	1					1			兼2	教育効果を考慮し、原口講師(兼任)、山 之内講師(兼任)を担当者として追加(28)	
	英語演習5	2前	1					1			兼1	教育効果を考慮し、吉野講師(兼任)を担 当者として追加(28)	
	英語演習6	2後	1					1			兼1	教育効果を考慮し、吉野講師(兼任)を担 当者として追加(28)	
	国際関係論	2前	2				1						
	国際協力論	2後	2				1		0 +				石崎専任講師が病氣療養中につき、長 田専任教授を採用(27)
	国際文化支援論	2後		2								兼1	
	国際地理論	1後		2								兼1	
	開発社会学	2前		2			1						
	文化交流論	2前		2			1						
	国際社会学	2前		2					1				
	マイノリティ論	2前		2			1						
	ジェンダー論	2前		2					1				
	国際移民論	2前		2					1				
	日中関係論	2前		2				1					
	アジア政治論	2後		2					1				
	国際機構論	2前		2			1					兼0 兼1	教育効果を考慮し、長田専任教授に担当 変更(27)
	平和学	2春 2後		2								兼1	教学上の理由により、開講時期を変更 (28)
	農村発展論	2前		2			1		0 +				石崎講師(専任)が病氣療養中につき、 担当者を木村教授(専任)に変更(28)
	アジア経済論	2後		2								兼1	
	国際企業論	3前		2					1				
	文化変容論	3前		2			1						
	アジア地域研究1	3前		2			1						
	アジア地域研究2	3後		2					1				
	国際文化支援展開科目	文化マネジメント論	2前		2				1				
		多文化共生社会論	2後		2			1					
	異文化コミュニケーション論	2前		2							兼1		
	多文化教育論	2後		2			1						
	世界遺産と保全	3前		2		1							
	国際環境文化論	3後		2		1							
	国際人権論	2後		2				1					
	比較地域生活史	3前		2		1							
	企業文化論	3後		2							兼1		
国 際 文 化 支 援 展 開 科 目	比較文化・社会論1	2前		2							兼1		
	比較文化・社会論2	2後		2							兼1		
	メディア文化論	2前		2							兼1		
	観光文化論	2後		2							兼1		
	現代アジア文化社会論	2前		2			1						
	韓国文化社会論	2後		2							兼1		
	アメリカ社会文化論	2前		2							兼1		
	アメリカ政治経済論	2後		2							兼1		
	ヨーロッパ文化総論	2前		2							兼1		
	環太平洋地域文化論	3前		2			2					オムニバス	
	イスラム文化圏論	3後		2							兼1		
	開発経済学	2後		2					0 +		兼1	石崎講師(専任)が病氣療養中につき、 担当者を史講師(兼任)に変更(28)	
	国際福祉論	2前		2			1				兼1	教育効果を考慮し、長田専任教授に担当 変更(27)	
	NPO・NGO論	2後		2					1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
学 科 専 門 科 目	国際文化関連科目	英米文学概論1	2前	2								兼1	
		英米文学概論2	2後	2								兼1	
		英米文学講義1	2前	2								兼1	
		英米文学講義2	2後	2								兼1	
		英文学史	2前 2後	2								兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(28)
		米文学史	2後	2								兼1	
	留 学 単 位	海外事情1	1・2・3・4前・後		2		1						集中
		海外事情2	1・2・3・4前・後		2		1						集中
		海外事情3	1・2・3・4前・後		2		1						集中
		海外事情4	1・2・3・4前・後		2		1						集中
	演 習 科 目	国際協力実践論1	1・2・3前		2		3 2	1	3				石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)
		国際協力実践論2	1・2・3後		2		3 2	1	3				石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)
		国際協力基礎演習1	2前	2			4 3	1	3				石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)
		国際協力基礎演習2	2後	2			4 3	1	3				石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)
		国際協力演習	3~4通	8			5 4	1	3				石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

## (2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 22	科目 218	科目 0	科目 240	科目 22 [0]	科目 218 [0]	科目 0 [0]	科目 240 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	ボランティア学	2	1・2・3・4	一般	選択	教学上の理由により未開講。代替措置なし。次年度開講の予定で調整を進めている。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「ボランティア学」については、教学上の理由により未開講。次年度開講の予定で調整を進めている。学生に対しては履修登録システムにおいて周知をしている。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 舎 敷 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	その他に校舎敷地とする空地を含んでいたため訂正した。また、その他に法人所有地を含んでいたため控除した。(27) 校舎敷地を取得した。(28)			
	校舎敷地	234,924.84 225,418.99 144,021.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	234,924.84 225,418.99 144,021.00 m <sup>2</sup>				
	運動場用地	83,493.78 81,632.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	83,493.78 81,632.00 m <sup>2</sup>				
	小 計	318,418.62 308,912.77 225,653.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	318,418.62 308,912.77 225,653.00 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	64,445.76 181,773.53 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	64,445.76 181,773.53 m <sup>2</sup>				
	合 計	382,864.38 373,358.53 407,426.53 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	382,864.38 373,358.53 407,426.53 m <sup>2</sup>				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	平成27年1月竣工の新校舎の面積を、建築面積から登記上の面積に修正した。(27)			
		74,094.01m <sup>2</sup> 74,102.73m <sup>2</sup> (74,094.01m <sup>2</sup> ) (74,102.73m <sup>2</sup> )	0m <sup>2</sup> ( 0m <sup>2</sup> )	0m <sup>2</sup> ( 0m <sup>2</sup> )	74,094.01m <sup>2</sup> 74,102.73m <sup>2</sup> (74,094.01m <sup>2</sup> ) (74,102.73m <sup>2</sup> )				
(3) 教 室 等		講 義 室 95室	演 習 室 82室	実験実習室 27室	情報処理学習施設 6室 (補助職員 0人)	語学学習施設 8室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 国際文化学部国際協力学科		室 数 10 9 室	平成27年4月、専任教員1名を新規採用のため(27)				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点		
	国際文化学部	115,443[32,995] 111,019[32,647] (113,984[32,818]) (+12,660[32,738]) (+11,019[32,647])	(1,060[495])	(400[400])	1,898 (1,728) (+1,694) (+1,642)	1,612 (1,612)	0 (0)		
	計	115,443[32,995] 111,019[32,647] (113,984[32,818]) (+12,660[32,738]) (+11,019[32,647])	(1,060[495])	(400[400])	1,898 (1,728) (+1,694) (+1,642)	1,612 (1,612)	0 (0)		
(6) 図 書 館		面 積 5,907.13 m <sup>2</sup>	閱 覧 座 席 数 869 857 778	収 納 可 能 冊 数 550,000	大学全体 平成27年度報告漏れのため、2年分の変更を記載。 平成27年度、平成28年度ともに瀬戸図書館の席数増加(28)				
(7) 体 育 館		面 積 6,711.52 m <sup>2</sup>	体育館以外のスポーツ施設の概要 野球場1面、屋内プール1面、テニスコート17面、ゴルフ練習場1面他						
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費は大学全体で配分
		教員1人当り研究費等	680千円	680千円	図書購入費	5,270千円	5,270千円	5,270千円	
		共同研究費等	3,697千円	3,697千円	設備購入費	0千円	0千円	0千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,370千円	1,090千円	1,090千円	1,090千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金収入、手数料収入、資産運用収入、雑収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成28年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(28)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋学院大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
経済学部						1.16			
経済学科	4	250	-	1,100	学士(経済学)	1.16	昭和39年度	愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号	平成27年度より3年次編入学定員(10)廃止、入学定員を300から250に変更。
総合政策学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成12年度	同上	平成27年度より学生募集停止
現代社会学部						0.91			
現代社会学科	4	150	-	300	学士(現代社会)	0.91	平成27年度	同上	
商学部						1.17			
商学科	4	200	-	800	学士(商学)	1.20	平成4年度	同上	平成27年度より3年次編入学定員(5)廃止
経営情報学科	4	100	-	400	学士(商学)	1.10	平成15年度	同上	
法学部						1.17			
法学科	4	150	-	600	学士(法学)	1.17	平成25年度	同上	
外国語学部						1.18			
英米語学科	4	140	-	560	学士(文学)	1.18	平成元年度	同上	
中国コミュニケーション学科	4	-	-	-	学士(文学)	-	平成元年度	同上	平成27年度より学生募集停止
国際文化協力量科	4	-	-	-	学士(文学)	-	平成17年度	同上	平成27年度より学生募集停止
国際文化学部						0.88			
国際文化学科	4	100	-	200	学士(文学)	1.01	平成27年度	同上	
国際協力量科	4	50	-	100	学士(文学)	0.65	平成27年度	同上	
スポーツ健康学部						1.16			
スポーツ健康学科	4	120	-	480	学士(スポーツ健康)	1.26	平成22年度	愛知県瀬戸市上品野町1350番地	
こどもスポーツ教育学科	4	50	-	100	学士(こどもスポーツ教育)	0.50	平成27年度	同上	
リハビリテーション学部						1.15			
理学療法学科	4	80	-	320	学士(理学療法)	1.15	平成22年度	同上	

大学の名称	名古屋学院大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
経済経営研究科	年	人	年次人	人		倍			
経済学専攻 修士課程	2	7	-	14	修士 (経済学)	1.28	平成9年度	愛知県名古屋市熱田区大宝三丁目1番17号	
経営政策専攻 博士前期課程	2	20	-	40	修士 (経営学)	1.10	平成9年度	同上	
経営政策専攻 博士後期課程	3	5	-	15	博士 (経営学)	0.33	平成11年度	同上	
外国語学研究科									
英語学専攻 修士課程	2	7	-	14	修士 (英語学)	0.28	平成9年度	同上	
国際文化協力専攻 修士課程	2	5	-	10	修士 (国際文化協力)	0.60	平成21年度	同上	
英語学専攻 博士前期課程 (通信教育課程)	2	20	-	40	修士 (英語学)	1.02	平成13年度	同上	
英語学専攻 博士後期課程 (通信教育課程)	3	3	-	9	博士 (英語学)	0.88	平成20年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成28年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
  - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

## 5 教員組織の状況

<国際文化学部 国際協力学科>

担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授(学部長)	木村 光伸	平成27年4月	生態学 グローバル社会文化論 ※ 国際環境論 文化交流論 世界遺産と保全 国際環境文化論 比較地域生活史 環太平洋地域文化論 ※ 海外事情1 海外事情2 海外事情3 海外事情4 国際協力演習	専	教授(学部長)	木村 光伸	平成27年4月	生態学 グローバル社会文化論 ※ 国際環境論 文化交流論 農村発展論 世界遺産と保全 国際環境文化論 比較地域生活史 環太平洋地域文化論 ※ 海外事情1 海外事情2 海外事情3 海外事情4 国際協力演習	石崎講師が病氣療養中につき、当該科目を担当(28)
専	教授	増田 あゆみ	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 国際関係論入門 国際政治学 国際関係論 マイノリティ論 文化変容論 アジア地域研究1 環太平洋地域文化論 ※ 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習						
専	教授	矢澤 雅	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 現代社会と教育 教職論 教育原理 教育制度論 多文化教育論 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習						
専	教授	佐竹 眞明	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー アジア言語入門1 国際文化論 ※ 開発社会学 多文化共生社会論 現代アジア文化社会論 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習						
					専	教授	長田 こずえ	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 国際協力論 国際機構論 国際福祉論 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習	石崎講師が病氣療養中につき、左記科目の担当として採用し、教育の質の維持を図った(27)
専	准教授	中田 昭一	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 入門中国語1 入門中国語2 実践中国語1 実践中国語2 日中間係論 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習						
専	講師	工藤 泰三	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2 英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	佐伯 奈津子	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー アジア言語入門2 アジア政治論 アジア地域研究2 NPO・NGO論 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習						
専	講師	石崎 程之	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 国際協力論 農村発展論 国際企業論 開発経済学 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習						病気療養中のため後任未定であった「農村発展論」は木村教授、「開発経済学」は史講師(兼任)が担当。次年度開講の「国際企業論」は現在調整中(28) 病気療養中のため、現在「基礎セミナー」「発展セミナー」を長田教授が担当。「国際協力論」「国際協力実践論1・2」「国際協力基礎演習1・2」「国際協力演習」も長田教授に移行予定。「農村発展論」「国際企業論」「開発経済学」は後任未定であり現在調整中(27)
専	講師	人見 泰弘	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 国際社会学 ジェンダー論 国際移民論 文化マネジメント論 国際人権論 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習						
兼任	教授	水野 晶夫	平成27年4月	ボランティア学 地域商業まちづくり学 地域商業まちづくり演習 上級まちづくり演習	兼任	教授	水野 晶夫	平成27年4月	ボランティア学 地域商業まちづくり学 地域商業まちづくり演習 上級まちづくり演習	教学上の理由により、未開講(28)
兼任	教授	松永 公廣	平成27年4月	インターンシップ1 インターンシップ2						
兼任	教授	持田 辰郎	平成27年4月	哲学 哲学史						
兼任	教授	早川 厚一	平成27年4月	日本文学 日本文学史						
兼任	教授	谷口 篤	平成27年4月	心理学概論 教育心理学概論1 教育心理学概論2 教育の方法と技術 教育相談	兼任	教授	谷口 篤	平成27年4月	心理学概論 教育心理学概論1 教育心理学概論2 教育の方法と技術 教育相談	教学上の理由により、担当を外れたが、中島准教授(兼任)、加藤講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	教授	今村 薫	平成27年4月	文明論 人類学 文化人類学入門						
兼任	教授	伊沢 俊泰	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会	兼任	教授	伊沢 俊泰	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会	教学上の理由により、黒田准教授(兼任)、村上准教授(兼任)に担当変更(27)
兼任	教授	宝島 格	平成27年4月	数学 数理学 基礎統計学						
兼任	教授	秋元 浩一	平成27年4月	実用統計学						
兼任	教授	曾我 良成	平成27年4月	日本史 日本史概説 日本文化論						
兼任	教授	荻原 隆	平成27年4月	日本思想史						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	黄名時	平成27年4月	中国文化入門 考古学入門 実践中国語1 実践中国語2 国際文化論 ※						
兼任	教授	菅野 光公	平成27年4月	英米文化入門	兼任 兼任	講師 教授	菅野 光公	平成28年4月	英米文化入門	契約満了による退職のため、兼任講師として担当(28)
兼任	教授	井澤 知旦	平成27年4月	減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習  上級まちづくり演習	兼任	教授	井澤 知旦	平成27年4月	地域商業まちづくり学 減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習  上級まちづくり演習	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27) 教学上の理由により、越智講師(兼任)に担当変更(27)  教学上の理由により、担当を外れたが、水野教授(兼任)、越智講師(兼任)、田中講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	教授	近藤 泉	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2 時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 日常中国語1 日常中国語2						
兼任	教授	程 鵬	平成27年4月	情報処理基礎 情報概論						
兼任	教授	土屋 勝彦	平成27年4月	応用ドイツ語1 応用ドイツ語2 国際文化論 ※ グローバル社会文化論 ※ 比較文化・社会論1 ヨーロッパ文化総論	兼任	教授	土屋 勝彦	平成27年4月	応用ドイツ語1 応用ドイツ語2 国際文化論 ※ グローバル社会文化論 ※ 比較文化・社会論1 ヨーロッパ文化総論 入門ドイツ語1 入門ドイツ語2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員に変更(27)
兼任	教授	樋口 勇夫	平成27年4月	時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 コミュニケーション中国語1 コミュニケーション中国語2	兼任	教授	樋口 勇夫	平成27年4月	時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 コミュニケーション中国語1 コミュニケーション中国語2 基礎中国語1 基礎中国語2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員に変更(27)
兼任	教授	原田 寿美子	平成28年4月	時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 ビジュアル中国語 中国語検定読解入門 コンピュータ技法1 コンピュータ技法2	兼任	教授	原田 寿美子	平成28年4月	時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 ビジュアル中国語 中国語検定読解入門 コンピュータ技法1 コンピュータ技法2 基礎中国語1 基礎中国語2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員に変更(27)
兼任	教授	鹿毛 敏夫	平成27年4月	日本史概説						
兼任	教授	Ray Thomas Donahue	平成28年4月	異文化コミュニケーション論						
兼任	教授	十名 直喜	平成29年9月	企業文化論						
兼任	教授	Paul Dveraux McGrath	平成28年4月	英米文学概論1 英米文学講義1 英米文学講義2						
兼任	教授	米山 雅浩	平成28年4月	英米文学概論2						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	大宮 有博	平成27年4月	ボランティア演習 死生学※ 人権と社会 生命倫理※ 道德教育論	兼任	准教授	大宮 有博	平成27年4月	ボランティア演習 死生学※ 人権と社会 生命倫理※ 道德教育論 ボランティア学 聖書と人間	割愛による退職のため、以下のとおり担当者変更(28) ボランティア演習:越智講師(兼任)、玉川准教授(兼任)、山下講師(兼任) 聖書と人間:杉本講師(兼任)、日沖講師(兼任) 教学上の理由により、ボランティア学は未開講(28) 教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)、生命倫理は亀井講師(兼任)の単独担当に変更。人権と社会は神田講師(兼任)に変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	准教授	金 愛慶	平成27年4月	臨床心理学 韓国文化社会論	兼任	教授 准教授	金 愛慶	平成28年4月	臨床心理学 韓国文化社会論	教授に昇任(28)
兼任	准教授	飯島 滋明	平成27年4月	平和学入門 平和学	兼任	教授 准教授	飯島 滋明	平成28年4月	平和学入門 平和学	教授に昇任。教学上の理由により、担当を外れるが、中原講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	准教授	鈴木 啓司	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 応用フランス語1 応用フランス語2 比較文化・社会論2	兼任	准教授	鈴木 啓司	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 応用フランス語1 応用フランス語2 比較文化・社会論2 時事フランス語1 時事フランス語2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	准教授	新多 了	平成28年4月	留学英語中級						
兼任	准教授	山本 淑雄	平成28年4月	時事ドイツ語1 時事ドイツ語2	兼任	准教授	山本 淑雄	平成28年4月	時事ドイツ語1 時事ドイツ語2 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員に変更(27)
兼任	准教授	河原林 直人	平成28年4月	アジア経済論						
兼任	講師	黒柳 志仁	平成27年4月	キリスト教概説 キリスト教文化論1 キリスト教文化論2 比較宗教論 宗教と平和						
兼任	講師	安藤 りか	平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b キャリアデザイン3a キャリアデザイン3b	兼任	准教授 講師	安藤 りか	平成28年4月 平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b キャリアデザイン3a キャリアデザイン3b	准教授に昇任(28) 教学上の理由により、キャリアデザイン1aは石井講師(兼任)、キャリアデザイン1bは上本講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	江利川 良枝	平成28年4月	キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b						
兼任	講師	玉川 貴子	平成27年4月	死生学※	兼任	准教授 講師	玉川 貴子	平成28年4月 平成27年4月	死生学※ ボランティア演習	准教授に昇任(28) 教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)の単独担当に変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	講師	宮坂 清	平成27年4月	社会学入門 宗教社会学 文化人類学入門 文化人類学						
兼任	講師	斉藤 久美子	平成27年4月	生物学						
兼任	講師	小林 記之	平成27年4月	地球科学概論 地球物理学概論 物理学 地球環境学	兼任	准教授 講師	小林 記之	平成28年4月		准教授に昇任(28)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	吉田 達矢	平成27年4月	世界の近現代史 世界史 イスラム文化圏論	兼任	講師	吉田 達矢	平成27年4月	世界の近現代史 世界史 イスラム文化圏論  国際社会問題	教学上の理由により、担当を外れるが、中原講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	講師	伊藤 幹	平成27年4月	健康の科学 スポーツの科学 スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B スポーツ上級A スポーツ上級B						
兼任	講師	田中 智麻	平成27年4月	歴史観光まちづくり学 歴史観光まちづくり演習 上級まちづくり演習	兼任	講師	田中 智麻	平成27年4月	歴史観光まちづくり学 歴史観光まちづくり演習 上級まちづくり演習 インターンシップ1 インターンシップ2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	玉田 沙織	平成27年4月	日本語表現上級	兼任	講師	濱野 寛子	平成27年4月	日本語表現上級	玉田講師自己都合退職により、担当者を変更(27)
兼任	講師	川越 めぐみ	平成27年4月	日本語表現上級	兼任	講師	川越 めぐみ	平成27年4月	日本語表現上級	休職のため担当を外れるが、日本語表現上級は濱野講師(兼任)、永井講師(兼任)、堅田講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	市川 新剛	平成28年4月	留学英語上級	兼任	准教授 講師	市川 新剛	平成28年4月	留学英語上級	准教授に昇任(28)
兼任	講師	野尻 洋平	平成28年4月	メディア文化論	兼任	講師	野尻 洋平	平成27年4月 平成28年4月	メディア文化論  社会学入門	平成27年度より社会学入門を担当しているため就任予定年月を修正(28) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	講師	北垣 創	平成27年4月	キリスト教と文学 キリスト教史						
兼任	講師	志村 真	平成27年4月	キリスト教と文化 宗教と人間 聖書と人間 比較宗教学	兼任	講師	志村 真	平成27年4月	キリスト教と文化 宗教と人間 聖書と人間 比較宗教学	教学上の理由により、担当を外れるが、日沖講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、宗教と人間・比較宗教学は村山講師(兼任)、聖書と人間は大宮准教授(兼任)・日沖講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	石田 聖実	平成28年4月	キリスト教倫理 キリスト教人間学						
兼任	講師	石井 邦彦	平成27年4月	キャリアデザイン1a						
兼任	講師	丹山 美香	平成27年4月	キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	兼任	講師	丹山 美香	平成27年4月	キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	上本講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	加藤 智宏	平成27年4月	心理学概論						
兼任	講師	亀井 美穂	平成27年4月	死生学※ 生命倫理※	兼任	講師	亀井 美穂	平成27年4月	死生学※ 生命倫理※	教学上の理由により、担当を外れるが、文准教授(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)の単独担当に変更。生命倫理はオムニバスから単独担当に変更(27)
兼任	講師	玉木 満	平成27年4月	日本国憲法 現代社会と法律						
兼任	講師	中原 聖乃	平成27年4月	国際社会問題	兼任	講師	中原 聖乃	平成27年4月	国際社会問題 平和学	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	講師	長 昌史	平成27年4月	化学						
兼任	講師	八木 三生	平成27年4月	陶芸論 陶芸演習						
兼任	講師	稲垣 隆司	平成27年4月	環境科学	兼任	講師	杉山 範子	平成28年4月	環境科学	後任の教員を採用し、本年度より当該科目の担当(28) 本務の関係で科目担当ができず、未開講。次年度からの就任が難しいため、現在、後任(兼任)を選考中(27)
兼任	講師	米川 直樹	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級B	兼任	講師	米川 直樹	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	市野 聖治	平成28年4月	スポーツ中級A スポーツ中級B						
兼任	講師	河村 英子	平成27年4月	日本語表現	兼任	講師	岡山 高博	平成28年4月	日本語表現	教学上の理由により、河村講師(兼任)より担当者変更(28)
兼任	講師	永井 圭司	平成27年4月	日本語表現上級						
兼任	講師	野々山 富士江	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2	兼任	講師	石川 香代子	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2	教学上の理由により、担当を外れるが、基礎英語1.2は工藤講師(専任)、小杉講師(兼任)が担当するため、教育上支障はない(28) 教学上の理由により、担当者の変更(27)
兼任	講師	N. ルツ	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	N. ルツ	平成27年4月	英会話1 英会話2	履修者数の減少により、望月講師(兼任)・吉野講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	M.A.ダアノイ	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	M.A.ダアノイ	平成27年4月	英会話1 英会話2	履修者数の減少により、望月講師(兼任)・吉野講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	G. M. マクレラン	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	G. M. マクレラン	平成27年4月	英会話1 英会話2	履修者数の減少により、望月講師(兼任)・吉野講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	保坂 和宣	平成27年4月	入門ドイツ語1 入門ドイツ語2 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2 実践ドイツ語1 実践ドイツ語2	兼任	講師	保坂 和宣	平成27年4月	入門ドイツ語1 入門ドイツ語2 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2 実践ドイツ語1 実践ドイツ語2	教育効果を考慮し、入門ドイツ語1.2は土屋教授(兼任)、基礎ドイツ語1.2は山本准教授(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	下村 武	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2	兼任	講師	下村 武	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2	教学上の理由により、担当を外れるが、時事フランス語1.2は鈴木准教授(兼任)、ルヌウ講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	鈴木 球子	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 実践フランス語1 実践フランス語2	兼任	講師	鈴木 球子	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 実践フランス語1 実践フランス語2	教育効果を考慮し、入門フランス語1.2は鈴木准教授(兼任)・湯浅講師(兼任)、基礎フランス語1.2は鈴木准教授(兼任)・河脇講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	重松 由美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	兼任	講師	重松 由美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	教学上の理由により、担当を外れるが、時事スペイン語1.2は木下講師(兼任)、梅田講師(兼任)が、応用スペイン語1.2は内田講師(兼任)、渡辺講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	寺澤 宏美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	兼任	講師	寺澤 宏美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	教学上の理由により、入門スペイン語1.2は梅田講師(兼任)・木下講師(兼任)、基礎スペイン語1.2は内田講師(兼任)・櫻井講師(兼任)に担当変更(27)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	史念	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2	兼任	講師	史念	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2 開発経済学	履修人数の減少により、中田准教授(専任)・近藤教授(兼任)に担当変更(27) 病気療養中の石崎講師(専任)に代わり担当(28)
兼任	講師	王麗英	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	兼任	講師	王麗英	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	教育効果を考慮し、基礎中国語1.2は原田教授(兼任)・樋口教授(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	陳泰銀	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	兼任	講師	陳泰銀	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	
兼任	講師	金禮	平成27年4月	入門韓国語1 入門韓国語2 基礎韓国語1 基礎韓国語2						
兼任	講師	今村彩子	平成27年4月	手話入門 手話基礎						
兼任	講師	犬塚文雄	平成28年4月	特別活動論	兼任 兼任	教授 講師	犬塚文雄	平成28年4月	特別活動論	兼任教授として採用(28)
兼任	講師	永田国豊	平成28年4月	生徒・進路指導論						
兼任	講師	吉野勇夫	平成28年4月	国際文化理解英語1 国際文化理解英語2 ビジネス英語1 ビジネス英語2 アメリカ社会文化論 アメリカ政治経済論	兼任	講師	吉野勇夫	平成28年4月	国際文化理解英語1 国際文化理解英語2 ビジネス英語1 ビジネス英語2 アメリカ社会文化論 アメリカ政治経済論 英会話1 英会話2 英語演習1 英語演習2 英語演習5 英語演習6	履修人数の減少により、当該科目の担当者として変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	山之内健太	平成27年4月	TOEIC英語入門 TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2 TOEIC英語実践1 TOEIC英語実践2	兼任	講師	山之内健太	平成27年4月	TOEIC英語入門 TOEIC英語入門 TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2 TOEIC英語実践1 TOEIC英語実践2 英語演習3 英語演習4	当該科目の担当復帰(28) 教学上の理由により、TOEIC英語入門は原口講師(兼任)に担当変更(27) 教学上の理由により、担当を外れるが、TOEIC英語基礎1.2は高橋講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	イラリオ ロサリオ	平成28年4月	時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	兼任	講師	イラリオ ロサリオ	平成28年4月	時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	教学上の理由により、担当を外れるが、時事スペイン語1.2は木下講師(兼任)、梅田講師(兼任)が、応用スペイン語1.2は内田講師(兼任)、渡辺講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	高橋晃子	平成28年4月	国際文化支援論 国際機構論	兼任	講師	高橋晃子	平成28年4月	国際文化支援論 国際機構論	教学上の理由により、担当を外れるが、長田教授(専任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	林上	平成27年4月	国際地理論						
兼任	講師	森正己	平成28年4月	観光文化論	兼任	准教授	山本真嗣	平成28年4月	観光文化論	教学上の理由により、森講師(兼任)より担当者変更(28)
兼任	講師	島津侑希	平成28年4月	国際福祉論	兼任	講師	島津侑希	平成28年4月	国際福祉論	教学上の理由により、担当を外れるが、長田教授(専任)が担当するため教育上支障はない(28)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	望月 節子	平成28年4月	英文学史 米文学史	兼任	講師	望月 節子	平成28年4月	英文学史 米文学史 英会話1 英会話2	教学上の理由により、担当を外れるが、英会話1,2は吉野講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 履修人数の減少により、当該科目の担当者として変更(27)
					兼任	教授	岡澤 憲一郎	平成27年4月	社会学入門 宗教社会学	定年退職により、担当を外れるが、社会学入門は宮坂講師(兼任)、早川教授(兼任)、野尻講師(兼任)が、宗教社会学は宮坂講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	教授	早川 洋行	平成27年4月	社会学入門	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	教授	津田 誠	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B	教学上の理由により、担当を外れるが、他の教員(4名)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	中島 誠	平成27年4月	心理学概論	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	榎澤 幸広	平成27年4月	日本国憲法 現代社会と法律	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	黒田 知宏	平成27年4月	現代社会と経済	教学上の理由により、伊沢教授(兼任)から担当変更(27)
					兼任	准教授	村上 寿来	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	濱 満久	平成27年4月	地域商業まちづくり学	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	松本 浩司	平成27年4月	現代社会と教育	教学上の理由により、矢澤教授(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	山下 匡将	平成27年4月	ボランティア演習	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	越智 祐子	平成27年4月	減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習 ボランティア演習 上級まちづくり演習	教学上の理由により、井澤教授(兼任)から担当変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	講師	上本 裕子	平成27年4月	キャリアデザイン1b	履修人数の減少により、安藤講師(兼任)、丹山講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	日沖 直子	平成27年4月	聖書と人間 キリスト教と文化 宗教と人間 比較宗教学	教学上の理由により、志村講師(兼任)から担当変更(27) 教学上の理由により、志村講師(兼任)から担当変更(28) 教学上の理由により、村山講師(兼任)から担当変更(28) 教学上の理由により、村山講師(兼任)から担当変更(28)
					兼任	講師	村山 由美	平成27年4月	死生学 宗教と人間 比較宗教学	教学上の理由により、担当を外れたが、死生学は文准教授(兼任)が、宗教と人間、比較宗教学は日沖講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、大宮講師(兼任)他のオムニバスを変更し、単独で科目を担当(27) 教学上の理由により、志村講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	神田 浩史	平成27年4月	人権と社会	教学上の理由により、大宮講師(兼任)から担当変更(27)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	上野 史朗	平成27年4月	日本史	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	坪田 暢允	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B	教学上の理由により、担当を外れるが、他の教員(4名)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	小杉 花代	平成27年4月	英語演習1 英語演習2 英語演習3 基礎英語1 基礎英語2	教学上の理由により、担当を外れるが、英語演習1.2は工藤講師(専任)、吉野講師(兼任)が担当するため、教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)  教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	講師	湯浅 康正	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2	教学上の理由により、担当を外れるが、鈴木准教授(兼任)、ルヌウ講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 履修人数の減少により、下村講師(兼任)、鈴木講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	河脇 都美	平成27年4月	基礎フランス語1 基礎フランス語2 応用フランス語1 応用フランス語2	履修人数の減少により、下村講師(兼任)、鈴木講師(兼任)から担当変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	講師	梅田 美代子	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更(27)  教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロザリオ講師(兼任)から担当変更(28)
					兼任	講師	木下 智統	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更(27)  教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロザリオ講師(兼任)から担当変更(28)
					兼任	講師	内田 千重子	平成27年4月	基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更(27)  教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロザリオ講師(兼任)から担当変更(28)
					兼任	講師	櫻井 里香	平成27年4月	基礎スペイン語1 基礎スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	原口 智子	平成27年4月	TOEIC英語入門 英語演習1 英語演習2 英語演習4	教学上の理由により、担当を外れるが、TOEIC英語入門は山之内講師(兼任)が、英語演習1.2は工藤講師(専任)、吉野講師(兼任)が担当するため、教育上支障はない(28) 教学上の理由により、TOEIC英語入門を山之内講師(兼任)から担当変更、教育効果を考慮し、英語演習1、2の担当教員として追加(27)  教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	教授	家本 博一	平成28年4月	インターンシップ1 インターンシップ2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	准教授	文 禎顕	平成28年4月	死生学 生命倫理	教学上の理由により、村山講師(兼任)より担当変更(28) 教学上の理由により、亀井講師(兼任)より担当変更(28)
					兼任	講師	白井 徹	平成28年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B	教学上の理由により、津田教授(兼任)より担当変更(28)
					兼任	講師	Loikku Lunu	平成28年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2	教学上の理由により、湯浅講師(兼任)より担当変更(28) 教学上の理由により、下村講師(兼任)より担当変更(28)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	鬼頭 伸和	平成28年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B	教学上の理由により、坪田講師(兼任)より担当変更(28)
					兼任	講師	堅田 陽子	平成28年4月	日本語表現上級	川越講師(兼担)の休職のため、担当変更(28)
					兼任	講師	杉本 和道	平成28年4月	キリスト教倫理 聖書と人間	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28) 大宮准教授(兼担)の割愛による退職のため、担当変更(28)
					兼任	講師	渡辺 有美	平成28年4月	応用スペイン語1 応用スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当変更(28)
					兼任	講師	高橋 美由紀	平成28年4月	TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2	教学上の理由により、山之内講師(兼任)より担当変更(28)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。  
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
  - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
  - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成28年5月1日現在の満年齢を記入してください。
  - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。  
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。

専任教員数等

(2) - ① 専任教員数

設置時の計画					現在(報告書提出時)の状況					現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
4	1	4	0	9	5	1	4	0	10	5	1	4	0	10
										[ 1 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 1 ]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。  
 ・ 「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(2) - ② 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告書提出時(上記(A))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
70	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成28年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
						該当なし				
合計（A）					後任補充状況の集計（B）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
						該当なし				
合計（C）					後任補充状況の集計（D）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した**全ての専任教員**の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（A）+（C）				後任補充状況の集計（B）+（D）					
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください

## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
該当なし				

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（**実地調査や面接調査を実施した日ではありません。**）

## 7 その他全般的事項

### <国際文化学部 国際協力学科>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし。	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

##### ① 実施体制

###### a 委員会の設置状況

別添「FD委員会規程」に基づき、全学的なFD委員会の下部組織に、国際文化学部FD委員会を設置している。国際文化学部FD委員会の構成は学部長を委員長とし、4名の専任教員（教務委員と同一）により構成する。

###### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

《国際文化学部FD委員会開催状況及び教員の参加状況》

2015年度：8回（学部開設時の予定に則して学部教務委員会開催に合わせて検討会を実施している）。またFD委員会の方針と学部長の指示により、学部教授会終了後に4回の教員検討会を実施し、入学時から授業の進捗に応じて学生たちの動向を教員が共有し、問題行動があれば全体で分析し、学部教育の方向性を教員全体の問題として共有する機会を持った。これらにはほぼ全員の教員が参加している。

###### c 委員会の審議事項等

《2015年度 国際文化学部FD委員会 審議事項》

- ・ 基礎セミナー、発展セミナーを中心に、学生を担当するアドバイザー教員がゼミ所属学生と密接にコンタクトできる状況を構築し、学生の学修に対する不安等を解消するとともに、将来へ向けた学習計画づくりをサポートできる体制をどのように作るか。
- ・ 離籍対象学生、学修困難学生等、指導上問題のある学生への対応
- ・ 届出に明示した授業計画に沿った授業展開のための教員間の調整

##### ② 実施状況

###### a 実施内容

学部FD委員会・学部教務委員会で確認した事項について、学部教授会及びその後に開催された教員意見交換会等において、国際文化学部としてのFD活動のあり方について全教員に周知し、徹底した。それを受けて、下記の各項目について実施した。

- ①全教員がオフィス・アワーを設定した。
- ②授業アンケートの実施。
- ③クラスアドバイザー教員による学生面談指導の実施。

###### b 実施方法

2015年度は、aで記載した内容に関して、

- ①全教員がオフィス・アワーを設け、学生と随時面談指導する場を設定した。
- ②教務部の基本方針に沿って、 Semesterごとに授業アンケートを実施した。
- ③2015年度は開設後の学年進行の予定に沿って、学部専門科目がまだ1年次対象の少数科目しか開講されていなかったため、教員相互の授業参観等の改善活動は実施せず、翌年度以降とした。
- ④クラスアドバイザー教員が随時学生と面談しつつ、学生支援課、学生相談室と連携して、学習相談、進路への迷いとう学生が学修上抱える問題点についてのフォローを実施した。

###### c 開催状況（教員の参加状況含む）

学部のFD活動のあり方については、上記記載の通り、学部FD委員会（学部教務委員会）が主導しつつ、学部長の判断により、学部教授会の際に頻繁に教育改善の依頼を行うとともに、随時、教員からの授業状況や問題点の指摘・相談を受け、全教員で議論する機会を持った。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

授業は、教員と学生の共同作業によって成立するという大前提を全教員が各自、自覚することで、授業における学生への働きかけを重視する機会が増加した。また、それぞれの授業の中での取り組みを全教員間で紹介し、議論することが可能となり、授業の密室化が防止されつつある。2015年度は1年生しか在籍していなかったので、セミナー単位の授業を複数回にわたって合同開催し、外部指導者を多数招いて実践的な指導を実施した。これは国際文化学部での学習内容の特色づくりとして大変有効であり、また学生が学外へ目を向け、多くの国際的な組織との連携を模索し始める契機ともなった。このような機会にも担当教員のみならず、担当分野外の多くの教員（内容により30～90%の出席率）の参加が得られた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

《2015年度 授業アンケート実施状況》

春学期：6月

秋学期：11月～12月

b 教員や学生への公開状況、方法等

教職員、学生とも、当該部署（学生支援課・瀬戸キャンパス総合事務部）にて閲覧することが出来る。教員は自身の担当科目を、学内イントラネットでも閲覧出来る。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学国際文化学部は文部科学省が推進するグローバル人材の養成を最大の目標として開設された。我が国においては「グローバル人材育成戦略」（平成24年6月）が指摘するように、豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身に付け、国際的に活躍できる人材の育成が喫緊の課題となっている。このような課題認識に従い、名古屋学院大学では国際化教育の再構築を目指し、既設の外国語学部英米語学科における国際英語教育と並行して平成27年4月に国際文化学部を設置し、国際文化理解と国際文化協力に基づくグローバル人材養成を図る課程を置いた。グローバル化が進む21世紀は、地域的利害や宗教意識がもたらす様々な地域紛争を引き起こし、地球全体を不安定な状態に置きつつある。また、20世紀に地球規模で顕在化した環境問題、世界を同時に巻き込むように進行する経済的混乱など、世界のあらゆる地域に暮らす人間が等しく地球人として協働し、持続可能な発展に対する妨げも山積している。それ故、様々な社会事情や国際関係、あるいは海外諸言語を個別に学ぶだけでは、真の国際性を有するグローバル人材となることは困難である。すなわち、国際社会の置かれた現状、それぞれの国・地域における文化のあり方や地域固有の生活、教育環境・歴史認識・文化遺産・宗教意識など多様な知識の集積が必要であり、かつ地域的課題やグローバルな諸問題を見出し、その実態を理解し、問題解決につなげる積極的な行動力も求められる。また、本学が位置する中部圏においては、国際的なマーケットで活躍する多数の企業が存在し、海外進出を希望する企業も増加の一途を辿っている。その一方で、中部圏は国内的に外国人就労者数の最も多い地域の一つでもあることから、多文化交流を意識的に促進する必要性がある。こうした地域の状況から見て、海外進出企業で活躍できる人材、自治体などで国際業務に対応できる人材、国際文化事業や国際協力事業を推進する人材へのニーズは今後ますます増大すると考えられる。

以上のような社会的要請に応えるために、本学は26年に及び外国語学部における教育研究、とりわけ中国コミュニケーション学科および国際文化協力学科の教育実績を踏まえ、両学科を基礎として新たに国際文化学部を設置した。国際文化学部は、建学の精神である「敬神愛人」をバックボーンとして、優れた外国語運用能力とともに、多文化間の相互理解と交流、さらには文化的支援に主力を置いた国際協力を通して、グローバルに活躍する人材を育成することを目的とし、真剣な他者理解の感覚と実践力を持って国際的場面で活躍できる人材の育成を明確に追及していく。具体的な学修目標として、以下の諸点を明示している。

- ① グローバル社会に生起する様々な問題についての確に対応できる多文化理解と持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付ける。
- ② グローバルに展開する社会・経済・文化の持続的発展に貢献する豊かな教養と人間性を養う。
- ③ 日本文化の基礎を確実に身に付け、多文化理解における比較文化の視点を明確に持たせる。
- ④ 多様な文化的世界において、自己の考え方を相手に正しく説明し、また、相手の意見を十分に理解するコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身に付ける。

このように、国際文化学部の扱う領域は、グローバル社会とは何かという大きな問題意識の下、国際社会の個別地域を対象とした歴史・文化を中心に、社会・政治・経済・宗教・環境など極めて多岐にわたる。そこで、国際文化学部は、「国際理解」及び「多文化交流」を中心に展開する国際文化学科と、「文化協力」及び「文化支援」を念頭に置いて国際文化理解教育を実践する国際協力学科の2学科体制とし、学修の方向性を明確に示している。これら学部教育の目標は履修要綱、シラバスに明確に記載されており、またオリエンテーションを通して学生に徹底された。同時に教員に対してもFD活動、教員の意見交換会などを通して自覚を促し、学部教員全体で教育活動の目標達成への努力を続けている。

2015年度は第1期生として入学した学生を対象として、上記の設置の趣旨・目標に合致した教育を推進するために、入学前教育として「自己の発見」プログラムを導入し、まずは大学生として社会と向き合うための仲間づくり、大学において行われる授業への取り組みの自己認識などの指導から教育活動を開始した。さらに入学後、正規の授業開始までの期間を活用したオリエンテーションで、ゼミ（基礎セミナー）単位での行動を実践させるために名古屋市周辺の国際的な機関、施設などを訪問したり、外国人との対話機会を持つなど、国際文化理解、国際協力活動への積極的な接近体験を持たせてから、正規の授業プログラムへと誘導した。その成果は4月末に学部全体の合同発表会を開催して学生・教職員が共有した。1年生の授業の骨格として、教養科目において春学期は「基礎セミナー」、秋学期は「発展セミナー」を配置し、必修専門科目の「国際文化論」「日本文化論」「英語演習1・2」等と連携しながら、学部の教育目標へ学生の意識を近づける努力を行った。その際に、ゼミの垣根を超えて学部、学科単位で外部指導者による教育活動を実施し、また文化的活動イベントを課外時間に設けるなど、広く文化、国際関係の実際に触れるような教育機会を挿入することで、全学生に対して国際的視野を持たせる一助とした（全体で年間10回開催）。また、本学部の特色のひとつである野外体験、実践体験の関わる授業として、国際協力学科では「海外スタディーツアー」を実施し、インドネシア・アチェ州への訪問を通して、途上国の抱える問題点を実体験を通して理解し、学生が現地生活者と問題点を共有することの大切さを学ぶことができた。本授業では、学生の取りまとめにより報告会を実施するとともに「成果報告書」を完成させて、学内外に配布している。学部開設初年度の活動として、教職員の学部目標への意識付けができたこと、学生が主体的な学びの必要性に気づく機会を多く提供できたことなど、2年目以降へつなげる流れが形成されつつあると自己評価しているが、初年度の経験をいかに第2年目の入学性に伝達し、共有できるか、また教員の自覚がどこまで維持し、発展し続けられるかが、これからの課題であると認識している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成28年10月 公表予定

b 公表方法

自己点検・評価報告書『名古屋学院大学の現状と課題』を刊行し、学内外に配布及びホームページで公表する。

③ 認証評価を受ける計画

財団法人大学基準協会の相互評価及び認証評価を受け、平成24年3月に、「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2019（平成31）年3月31日までとする。」との結果を受領している。平成30年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受ける予定である。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（4）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

（ 有 ・  無 ）

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

（ 年 月 日 ）